

2021 年度 修士学位審査請求論文

現代中国語における「由」構文に関する研究

XU Xinrui

7213190008-3

立命館大学言語教育情報研究科

2021 年度

## 要旨

本稿は現代中国語における「由」構文に関する研究である。「由」構文とは、前置詞「由」が動作主名詞句を導く構文である。本稿では、語彙的アスペクト、他動性、意図性など視点から、「由」構文の特徴を明らかにする。

第3章では、語彙的アスペクトの観点から、「由」構文がとる動詞のタイプを分析した。活動動詞動詞と達成動詞は「由」構文の述語動詞になりやすい一方、状態動詞と到達動詞は「由」構文の述語動詞になりにくいことを明らかにした。

第4章では、Hopper & Thompson (1980)に基づき、「由」構文の他動性について検討した。「由」構文は、参加者、動作様態、肯定、現実性、動作主性、個性性に関して、他動性が高いと評価され、アスペクト、瞬間性、意図性、受影性に関して、他動性が低いと評価される。このことから、「由」構文は他動性が中程度の構文であると言える。

第5章では、「由」構文の意図性をめぐり、他言語との対照も視野に入れ、議論を展開したうえで、「由」構文を一種の非意図的斜格主語構文と見なすことができることを明らかにした。

キーワード: 「由」構文、語彙的アスペクト、他動性、意図性

## 目次

要旨	i
目次	ii
1 はじめに	1
2 先行研究と問題提起	2
2.1 先行研究	2
2.1.1 呂(1985)以前の研究	2
2.1.2 呂(1985)以降の研究	3
2.1.2.1 「由」構文の本質	3
2.1.2.2 「由」構文の特徴	3
2.1.2.3 「由」構文と中国語における他の構文との比較	4
2.1.2.4 「由」構文と他言語との対照研究	5
2.2 問題提起	6
3 語彙的アスペクトから見た「由」構文がとる動詞のタイプ	6
3.1 動詞分類と「由」構文における動詞に関する先行研究	6
3.2 中国語の語彙的アスペクト	6
3.3 「由」構文における述語動詞の語彙的アスペクト	8
3.4 「由」構文に見られるアスペクトシフト	13
3.5 まとめ	14
4 「由」構文の他動性分析	14
4.1 他動性の定義	14
4.2 分析	15
4.2.1 文(節)に関わるパラメータ	15
4.2.1.1 参加者	16
4.2.1.2 肯定	18
4.2.1.3 現実性	19
4.2.2 動作主に関わるパラメータ	21
4.2.2.1 意図性	21
4.2.2.2 動作主性	23
4.2.3 動作対象に関わるパラメータ	25

4.2.3.1 受影性	25
4.2.3.2 個性性	26
4.2.4 動詞に関わるパラメータ	30
4.2.4.1 動作様態	30
4.2.4.2 アスペクト	32
4.2.4.3 瞬間性	34
4.2.5 本節のまとめ	37
4.3 考察	39
4.4 まとめ	41
5 意図性をめぐって	42
5.1 「由」構文がとる動詞のタイプと意図性	42
5.2 「由」構文の本質	42
5.2.1 ベンガル語における与格主語構文	43
5.2.2 非意図的斜格主語構文	45
5.3 まとめ	45
6 おわりに	46
参考文献	47

#### 略語一覧

COP コピュラ

PASS 受動マーカ

PERF 完了相マーカ

PROG 進行相マーカ

## 1.はじめに

広義の「由」構文は、前置詞「由」を含む文を指す。「由」の後に来る名詞句の意味役割は動作主、起点、手段などがあり得る。この定義では、(1)～(3)は皆「由」構文となる。広義の「由」構文を扱う研究としては、李(2000a、2000b、2007)、欧(2005)などがあげられる。狭義の「由」構文は動作主が「由」の後に置かれる構文を指す。この定義では、(1)だけが「由」構文である。本稿の研究対象は狭義の「由」構文である。狭義の「由」構文の先行研究を第2章で紹介する。

- (1) 1 班 的 班主任 由 王老师 担任。 (由+動作主)  
1 組 の 担任の先生 由 王先生 担当する  
‘1組の担任の先生は王先生が担当する。’
- (2) 那 个 人 是 由 城 南 来 的。 (由+起点)  
あ の 人 コピュラ 由 街 南 来 る 述語化  
‘あの人は町の南から来たのだ。’
- (3) 我 们 班 由 投票 选 出 了 班 长。 (由+手段)  
私 们 们 クラス 由 投票 選出する 完了 委員長  
‘私たちのクラスは投票で委員長を選出した。’

狭義の「由」構文には(4)のような「NP<sub>対象</sub>+由+NP<sub>動作主</sub>+VP」語順と(5)のような「由+NP<sub>動作主</sub>+VP+NP<sub>対象</sub>」語順がある。(4)と(5)は命題的に等価である。強調する部分だけが異なる。(4)は「上級日本語」を強調する。(5)は「佐藤先生」を強調する。

- (4) 高级日语 由 佐藤老师 讲授。  
上級日本語 由 佐藤先生 講義する  
‘上級日本語は佐藤先生が講義する。’
- (5) 由 佐藤老师 讲授 高级日语。  
由 佐藤先生 講義する 上級日本語  
‘佐藤先生が上級日本語を講義する。’

本稿では便宜上、これ以降、狭義の「由」構文を「由」構文と呼ぶ。本稿は「由」構文の述語動詞の種類、他動性に注目し、先行研究を検証した上で分析を展開する。

本稿の例文は作例、先行研究から引用する例文、コーパスから収集する例文がある。作例以外は出所を明記する。

本稿の構成は次の通りである。第2章は先行研究の紹介である。第3章は語彙的アスペクトの角度から「由」構文がとる動詞の種類を考察する。第4章は Hopper & Thompson (1980)が提案した他

動性のパラメータに基づき、「由」構文の他動性を考察する。第5章は第4章のパラメータのうち意図性に焦点を当てた分析である。第6章で議論をまとめる。

## 2. 先行研究と問題提起

### 2.1 先行研究

「由」構文を初めて本格的に論じたのは呂(1985)である。それ以前の研究では、「由」構文は他の言語現象に付随して論じられるに過ぎなかった。呂(1985)は「由」構文研究の分水嶺といっても過言ではない。ここでは、呂(1985)以前の研究とそれ以降の研究を分けて紹介する。

#### 2.1.1 呂(1985)以前の研究

最初に「由」構文を取り上げたのは張(1953)である。張(1953)は、「由」構文は話し言葉で用いられる受動文であることを指摘している。また、趙(1956)は「由」構文と中国語における最も典型的な受動文「被」構文を比べ、両者の相違点を示している。趙(1956)によると、語順では、(6)に示すように、「由」構文には「NP<sub>対象</sub>+PP+NP<sub>動作主</sub>+VP」と「PP+NP<sub>動作主</sub>+VP+NP<sub>対象</sub>」の2つの形式があるのに対して、現代中国語における「被」構文は(7)に示すように「NP<sub>対象</sub>+PP+NP<sub>動作主</sub>+VP」の語順だけをとる。

(6) a. 钱 由 我 付。 (趙 1956:49)

お金 由 私 払う

‘お金は私が払う。’

b. 由 我 付 钱。 (趙 1956:49)

由 私 払う お金

‘私がお金を払う。’

(7) 我 被 他 欺侮。 (趙 1956:49)

私 被 彼 虐める

‘私は彼にいじめられた。’

また、趙(1956)によると、「由」構文は完了した行為と未完了の行為のどちらも表すことができるが、「被」構文は一般的に完了した行為を表す。したがって、「由」構文は(9)に示す「被」構文と違い、(8)のように動詞の前に未来を表す「来(来る)」「去(行く)」を加えることができる。

(8) 钱 由 我 来 付。 (趙 1956:49)

お金 由 私 来る 払う

‘お金は私が払う。’

(9) \* 我 被 他 来(去) 欺侮。 (趙 1956:49)

私 被 彼 来る(行く) 虐める

趙(1956)以降、1980年代まで、確認した限り、「由」構文はほとんど論じられていない。龔(1980)と王(1983、1984)は対象主語文と「被」構文を論じるときに「由」構文に言及している。龔(1980)は、「由」構文は動作主を強調する構文であることを指摘している。王(1983)は「由」は「被」と同じく、英訳するとき「by」を用いて訳す場合が多いことを指摘した。王(1984)は「由」構文に、ある仕事(「由」構文の述部)をある人(「由」構文の動作主)に任せる、あるいはある人の責任を述べるという意味があると述べている。そのため、「被」構文と違い、「由」構文が強調するのは対象が受けた影響ではない。

以上のように、呂(1985)以前の「由」構文の研究は、他の言語現象を論じる際に付随して言及されるに過ぎなかった。呂(1985)は初めて「由」構文を中心的なテーマとして取り上げた研究である。それ以降、「由」構文の研究は「被」構文、「把」構文などのように盛んになっていないが、数が増えてきた。次の項では呂(1985)以降の先行研究を紹介する。

## 2.1.2 呂(1980)以降の研究

### 2.1.2.1 「由」構文の本質

「由」構文が受動文であるかどうかについては先行研究で見解が分かれている。「由」構文には「NP<sub>対象</sub>+由+NP<sub>動作主</sub>+VP」(以下 A 型)と「由+NP<sub>動作主</sub>+VP+NP<sub>対象</sub>」(以下 B 型)の 2 つの語順が可能である。呂(1985)は A 型と B 型とも受動文ではないとしている。朱(2002)は A 型が受動文であるとしている。張(2004)は二つの文型とも受動文であると述べている。張(2004)によれば、A 型は構造上典型的な受動文「被」構文と一致するので、受動文と見なすべきであり、B 型は構造上能動文と類似するが、前置詞「由」が受動の意味を帯びているから、同じく受動文と見なすべきであるとしている。

### 2.1.2.2 「由」構文の特徴

「由」に後続する名詞句について、呂(1985)は、動作主で主に有生物である場合が主であるが、道具、材料、抽象名詞である場合もしばしばあることを指摘している。呂(1985)によると、対象名詞句が動詞の後に現れる場合、前置詞句が文頭に置かれるため、文には主語がない。中国語学では、このような主語がない文を「無主文」と呼ぶ。つまり、呂(1985)は B 型「由」構文は無主文である

と主張している。一方、白(1998)によれば、「由」構文 B 型は無主文ではなく、「由+ NP<sub>動作主</sub>」は文の主語として働く。その根拠として、次の五点を挙げている。①「由+X」は文頭を占める。②「由+X」は文の動作主を含む。③他の主語と見なすことができる成分がない。④「由」を省略したら、動作主への強調効果が弱くなるだけで、文全体の意味は変わらない。⑤「由+X」全体は省略できない。

白(1998)は「由」構文の強調機能について論じている。この特徴について、他に、呂(1985)、謝(1999)、張(2004)も論じている。呂(1985)は「由」構文の意味的重点が「由」の後に来る名詞句にあることを指摘している。謝(1999)は「由」の後に来る名詞句が「由」構文の焦点であると述べている。張(2004)は A 型と B 型が置き換えられる場合は多く、前者が対象を強調し、後者が動作主を強調すると述べている。

呂(1985)によれば、「由」構文の述語動詞は「负责(担当する)、担任(担任する)、主编(編集する)、举办(開催する)、发行(発行する)、陪同(伴う)」など、他の人・物に及ぶ動作動詞である。張(2004)は呂(1985)の説を補足し、「由」構文における対象の状態はあまり変わらないから、「由」構文の述語動詞は他動性が低いと指摘している。また、謝(1999)は、「由」構文は達成性を帯びている動詞をとると述べている。

### 2.1.2.3 「由」構文と中国語における他の構文との比較

「由」構文は「被」構文と構造上似ているため、よく比較される。これまでの研究では、「由」構文と「被」構文の構成要素と意味が取り上げられ、比較されてきた。呂(1985)によれば、「由」構文の動作主は省略できないが、「被」構文の動作主は(10)のように省略できる。

- (10) 被 打 伤 (呂 1985:22)  
被 毆 傷  
‘毆られて、傷ついた’

また、「由」構文の対象は一般的に不定であるが、「被」構文の対象は一般的に定である。「侵略(侵略する)、指责(責める)、杀害(殺害する)、排斥(排外する)、欺騙(騙す)、欺侮(いじめる)」など被害を表す動詞と、「知道(知る)、忘掉(忘れる)、尊重(尊敬する)、看见(見る)、听(聞く)」など心理動詞・知覚動詞は「被」構文で使えるが、「由」構文では使えない。意味特徴について、「由」構文は「意味的重点」が動作主であり、中立的な表現である一方、「被」構文は「意味的重点」が対象であり、不快な感情を表す表現である。張(2004)は、「由」構文は動作そのものを強調するが、「被」構文は動作とその結果を強調すると指摘している。

張(2004)は「由」構文 B 型と無標文を比較したうえで、前者が受動の意味を表すと述べている。



受動の意味を表すというのは、「由」構文では、行為は動作主の意志ではなく、誰かに要求されたというニュアンスがあるためである。張(2004)は(11)のような対になる例を挙げている。(11a)では動作主が自発的に歌を歌うという解釈があり得るが、(11b)では動作主が他の人に要求され、歌わせられたという解釈である。

(11) a. 下面, 青山 他 哥 蓝天 演唱…… (張 2004:43)

次 人名 彼 兄 人名 歌う(後略)

‘次は、青山の兄、藍天が歌う。’

b. 下面, 由 青山 他 哥 蓝天 演唱…… (張 2004:43)

次 由 人名 彼 兄 人名 歌う(後略)

‘次は、青山の兄、藍天が歌う。’

形式上、「由」構文 B 型と無標文の区別は主語にマーカーを伴っているかどうかであるため、張(2004)は「由」構文 B 型がマーカー受動文であると呼んでいる。対照的に、「被」構文と同じ構造を有する「由」構文の A 型を構造的受動文であると呼んでいる。

謝(2012)は「由」構文と使役文との連続性も指摘している。「由」には前置詞の用法の他、動詞の用法もあり、「放任する」の意味がある。謝(2012)が「由」構文と使役文との連続性を論じるときは、前置詞ではなく動詞としての「由」の例文を扱っている。したがって、厳密に言えば、使役文との連続性は「由」構文の特徴と言えないため、本稿では取り上げない。

#### 2.1.2.4 「由」構文と他言語との対照研究

「由」構文と他言語との対照研究では、謝(1999、2012)の一連の研究が代表的である。謝(1999)は「由」構文と日本語における「によって」受動文を比較した上で、両者の共通点を次のように述べている。「①両者とも「達成性」のある動詞を取る。②両者とも「達成性」のある動作主の限定性と結びついている。③両者とも焦点は動作主に置かれる。④両者は同じく中立的客観的な立場から事実を表す」。謝(2012)は「由」構文と「によって」受動文を周辺的な受動文として捉え、プロトタイプ的な受動文・自動詞文との連続性について論じている。謝(2012)によれば、「由」構文と「によって」受動文はプロトタイプ的な受動文(「被」構文と「に」受動文)と比べ、「被動者の昇格による話題化」という共通点があるが、「動作主の焦点化」と「被動者の迷惑性がない」という相違点もある。「由」構文と「によって」受動文は「ともに事象を客観的、中立的に表す点で自動詞文と繋がっている」と分析されている。

## 2.2 問題提起

「由」構文が取る動詞について、呂(1985)は動作動詞を取ると述べているのに対し、謝(1999)は達成動詞を取ると述べている。用語の定義として、動作動詞は達成動詞より広いと考えられる。「由」構文はどのタイプの動詞をとるかさらに検討する余地があると思われる。本稿の第3章は語彙的アスペクトの観点から「由」構文の述語動詞のタイプについて考察する。

張(2004)は「由」構文の他動性について言及したが、他動詞を構文が取る動詞の意味的特徴として分析している。Hopper & Thompson (1980)、角田(2009)などによると、他動性は文(節)の複数の意味的特徴に関わる点で、文(節)の意味的特徴である。実際、張(2004)によれば「由」構文は述語動詞の他動性が低いとされているが、この分析は対象の意味的特徴(受影性が低い)に由来すると思われる。しかし、他動性を考察する際、1つ2つの意味的特徴からある文(構文)の他動性が高いか低いかを断言するのは妥当ではないと考えられる。他動性の特徴は他に現実性、動作主性、対象の個性性などもある(Hopper & Thompson 1980)。したがって、より広い角度から「由」構文の他動性を考察する必要があると考えられる。本稿の第4章は「由」構文の他動性分析であり、第5章は他動性の下位パラメータ「意図性」をめぐる更なる検討である。

## 3 語彙的アスペクトから見た「由」構文がとる動詞のタイプ

### 3.1 動詞分類と「由」構文における動詞に関する先行研究

Vendler (1967)は語彙的アスペクトから英語における動詞が表す事象を状態(state)、活動(activity)、到達(achievement)、達成(accomplishment)に分けている。各タイプの事象を表す動詞を状態動詞、活動動詞、到達動詞、達成動詞と呼ぶ。状態動詞とは状態、存在、性質を描写する動詞であり、英語の know、believe、have、love、日本語の「いる」「ある」「ちがう」などがある。活動動詞とは行為や動きを表す動詞であり、英語の run、walk、swim、drive (a car)、日本語の「踊る」「眠る」「輝く」などがある。到達動詞とは状態と位置の変化を述べる動詞であり、英語の recognize、spot、find、lose、die、日本語の「建つ」「冷める」などがある。達成動詞とはある行為や活動によって状態変化か位置変化がおきることを意味する動詞であり、英語の paint (a picture)、make (a chair)、recove (from illness)、日本語の「建てる」「冷ます」などがある。

呂(1985)によると、「由」構文は動作動詞をとる。この規定が正しいならば、「由」構文は状態動詞以外の動詞をとることが可能ということになる。つまり、「由」構文は活動動詞、到達動詞、達成動詞をとることができる。一方、謝(1999)は、「由」構文は達成性のある動詞を取ると述べている。この規定が正しいならば、「由」構文は活動動詞をとることができないことになってしまう。

呂(1985)と謝(1999)では「由」構文の成立範囲の違いがあるため、語彙的アスペクトの観点から見ると、「由」構文はどのタイプの動詞をとるかという問題が生じる。本章では、この問題について検討する。それに先立って、中国語における動詞の語彙的アスペクトの特定に関する研究を紹介する。

### 3.2 中国語の語彙的アスペクト

中国語の語彙的アスペクトを論じた研究として Tai(1984)、陳(1988)、郭(1993)、戴(1997)、楊(2008)などがあげられる。楊(2008)は表1に示すテスト項目を用いて述語のアスペクトを詳細に検討している。本稿はこのテストを用いて、「由」構文の語彙的アスペクトを考察する。まずは各テスト項目について解説する。

表1 中国語における動詞の語彙的アスペクトの特徴

		状態	活動	到達	達成
程度副詞		+	-	-	-
正在		-	+	-	+
前置時間詞		-	-	+	+
後置時間詞	動作継続	-	+	-	+
	状態継続	-	-	+	-
均質性		+	+	-	-

(12) a. 程度副詞

程度副詞「很/非常(とても/非常に)」に修飾されることが可能か否か。

b. 正在

進行相を表す副詞「正在」と共起できるか否か。

c. 前置時間詞

述語動詞の前に「一年」「一か月」「一時間」などの時間詞が出現できるか否か。

d. 後置時間詞

述語動詞の後に時間詞が出現した場合、その文は動作継続の読みか、それとも状態継続の読みか。

e. 均質性

事象が均質的であるか否か。時間軸上において起点も終点もなく、全ての時点

で同じ状態を呈している事象は均質的であるといえる。

厳密に言えば、これらの項目のうち、均質性は語彙的アスペクトのテスト基準と言えない。潘(2000)によれば、時間を表す数量詞が述語の前に置かれるときに、動作は有界的であり、それが述語の後に置かれるときに、動作が無界的である。つまり、時間詞が前置するときには、動作は起点も終点もあるが、それが後置するときには、動作は起点も終点もないか、あるいは、そのうちのどちらかがない。馬(1981)によれば、時間詞が後置するときには、動作の継続を表す場合は動作行為の起点であり、状態の継続を表す場合は状態行為の終点である。これらの研究から分かるように、前置した時間詞がない場合に限り、動作に起点も終点も存在しない。つまり、均質性に関わるのは前置時間詞の出現の可否だけで、前置時間詞が出現できるか否かを検証すれば、事象が均質的であるか否かは自明である。したがって、均質性は語彙的アスペクトのテスト基準と言えない。そこで、本稿では前の4項目だけを基準とする。

次に楊(2008)のテストを用いて、「由」構文の語彙的アスペクトを考察する。

### 3.3 「由」構文における述語動詞の語彙的アスペクト

北京大学が開発したCCLコーパスより収集した「由」構文から系統抽出で200文を抽出した。<sup>1</sup>そして、この200文の述語動詞を抽出し、合計218語を得た。<sup>2</sup>本節では、この218語に対して、前節で紹介した楊(2008)の語彙的アスペクトのテストを使い考察したうえで、その語彙的アスペクトを明らかにする。<sup>3</sup>その結果を表2に示した。<sup>4</sup>以下、例を挙げ、動詞を各タイプに分類するプロセスを示す。

表2 タイプ別、本章で調査した「由」構文がとる動詞

状態動詞	0
動作動詞	組成(構成する)(16)、主持(主催する)(9)、主办(主催する)(7)、构成(構成する)(6)、担任(担当する)(4)、负责(責任を持つ)(4)、举办(開催する)(4)、率领(率いる)(4)、指挥(指揮する)(4)、进行(行う)(3)、包揽(全て取る)(2)、承办(引き受ける)(2)、承担(担う)(2)、领(連れる)(2)、领导(統率し指導する)(2)、陪同(伴う)(2)、保管(保管する)(1)、承包(引き受ける)(1)、承建(引き受ける)(1)、充当(担当す

1 前置詞「由」の後に置かれる名詞句の意味役割が動作主以外の場合がある。この場合、その文の前後から、本稿の定義に従う最も近い例文を抽出する。

2 2つ以上の述語動詞がある用例が存在する。

3 本節は動詞の固有性質を検討するため、動詞を無標文におき、分析する。そのため、本節の作例は「由」構文ではなく、無標文である。

4 括弧のなかの数字は当該動詞が出現した回数である。

	<p>る)(1)、搭档(協力する)(1)、担当(担当する)(1)、读(読む)(1)、对(対する)(1)、负(負う)(1)、干(やる)(1)、管理(管理する)(1)、环绕(囲む)(1)、讲(講義する)(1)、教(教える)(1)、接見(引見する)(1)、控股(株を保有する)(1)、连接(つながる)(1)、联系(連絡する)(1)、领衔(リードする)(1)、敲(のつくする)(1)、贍养(養う)(1)、首发(先発する)(1)、调节(調節する)(1)、推选(選ぶ)(1)、相拥(抱き合う)(1)、想(考える)(1)、协调(調和させる)(1)、兴建(建てる)(1)、选举(選挙する)(1)、寻找(探す)(1)、演(演じる)(1)、拥有(保有する)(1)、照料(面倒を見る)(1)、支撑(支える)(1)、支持(支える)(1)、指引(案内する)(1)、主导(導く)(1)、追究(追及する)(1)、做(やる)(1)</p>
到達動詞	<p>湊成(結成する)(1)、突入(突入する)(1)、牺牲(犠牲になる)(1)、形成(なる)(1)</p>
達成動詞	<p>组织(組織する)(6)、出版(出版する)(5)、決定(決める)(4)、发行(発行する)(3)、提供(提供する)(3)、投入(投入する)(3)、研制(開発する)(3)、批准(承認する)(2)、牵头(表に立つ)(2)、签名(サインする)(2)、投资(投資する)(2)、执行(執行する)(2)、指定(指定する)(2)、解决(解決する)(2)、赞助(賛助する)(2)、熬粥(お粥を炊く)(1)、办理(取り扱う)(1)、办学(学校を作る)(1)、編(編集する)(1)、編印(編集し印刷する)(1)、編纂(編纂する)(1)、拨补(経費を回す)(1)、拨给(経費を回す)(1)、阐明(明らかにする)(1)、出钱(お金を出す)(1)、出示(提示する)(1)、出资(お金を出す)(1)、传(伝える)(1)、传播(広く伝える)(1)、答应(承諾する)(1)、打捞(引き上げる)(1)、带回(連れ戻す)(1)、带来(もたらす)(1)、得出((結果などを)得る)(1)、订制(誂える)(1)、发布(公表する)(1)、发起(発起する)(1)、返还(返金する)(1)、改编(改作する)(1)、盖章(捺印する)(1)、公布(公表する)(1)、合办(共同で行う)(1)、自绘(自分で描く)(1)、解释(解釈する)(1)、竞得(せり売りで得る)(1)、捐款(寄付する)(1)、均分(等分する)(1)、开(処方箋を書く)(1)、开发(開発する)(1)、扣(差し引く)(1)、垄断(独占する)(1)、披露(発表する)(1)、融合(解け合わせる)(1)、上菜(料理を出す)(1)、埋(埋める)(1)、审议(審議する)(1)、生成((PC ファイル)を作成する)(1)、收(受け取る)(1)、收购(購入する)(1)、授权(1)提出(提出する)(1)、题写((書名を)書く)(1)、推出(出す)(1)、选派(選抜し派遣する)(1)、选择(選ぶ)(1)、引发(引き起こす)(1)、予以(与える)(1)、责令停止(中止を命じる)(1)、召开(人を招集し会議などを開催する)(1)、制定(制定する)(1)、转给(譲渡する)(1)、做出(作り出す)(1)、葬(葬る)(1)、资助(物質的に援助する)(1)</p>

[1]活動動詞の例

(13)は「主持(主宰する)」を述部とする単文である。程度副詞「很/非常(とても/非常に)」を加えた(14)は自然ではない。進行相を表す副詞「正在」を加えた(15)は自然に成立でき、「現在校長が主催者を務める会議が進行中」を表す。前置時間詞「一小时(一時間)」を加えた(16a)は不自然である。ちなみに、この文を自然にしようとすると、(16b)のように、「終わる」を意味する結果補語「完」を加えなければならない。このときは一時間で会議が終わったことを表し、進行から中止へという状態変化を含意している。つまり、ある動詞の語彙的アスペクトは語レベルと句レベルで違う解釈があり得る。後置時間詞を加えた(17)は自然であり、校長が会議を主宰してから一時間経ったことを表す。言い換えれば、(17)は「会議を主宰する」という動作の継続を表す。[正在][後置時間詞(動作継続)の二つのテストから、「主持(主宰する)」を活動動詞に分類することができる。

(13) 校长 主持 会议。

校长 主宰する 会議

‘校長が会議を主催する。’

(14) \* 校长 很/非常 主持 会议。

校长 とても/非常に 主宰する 会議

(15) 校长 正在 主持 会议。

校长 PROG 主宰する 会議

‘校長が会議を主宰している。’

(16) a. \* 校长 一个小时 主持 了 会议。

校长 一時間 主宰する PERF 会議

b. 校长 一个小时 主持 完 了 会议。

校长 一時間 主宰する 終わる PERF 会議

‘校長は一時間で会議を主宰した。’

(17) 校长 主持 会议 主持 了 一个小时。

校长 主宰する 会議 主宰する PERF 一時間

‘校長は一時間会議を主宰した。’

活動動詞のなかには日本語訳から見ると達成動詞と思われるものがいくつかある。例えば、「选举(選挙する)」「推选((代表者などを)選ぶ)」などである。ただし、中国語においてこれらの動詞が結果を表す補足成分なしで使われると、移動あるいは状態変化を含意しない。(18a)と(18b)を比べてみよう。この2つの文はともに村人たちが選挙を行うことを表すが、その唯一の区別は「选举(選挙する)」の後に「出」が付いているかどうかである。「出」を付けている(18b)は誰かが新しく村長を当選さ

せたという結果を含意するが、「出」を付けていない(18a)はそのような意味を含意しない。選挙のプロセスを表すのが本来の意味なので、これらの動詞は活動動詞に分類することができる。

(18) a. 村民们 选举 村长。

村人たち 選挙する 村长

‘村人たちが村長を選挙する。’

b. 村民们 选举 出 村长。

村人たち 選挙する 出す 村长

‘村人たちが村長を選出する。’

(19)～(22)は「选举(選挙する)」に対するテストである。(19)は(18)に程度副詞を加えるもので、不自然な文である。進行相副詞を加えた(20)は自然に成立可能で、「村人たちによる選挙が進行中」を表す。前置時間詞「一週間」を加えた(21)は不自然である。後置時間詞を加えた(22)は選挙が一週間続いたことを表す。その本質は「村人たちが候補者のことを知ったり、投票したりする」という動作の継続である。[正在][後置時間詞(動作継続)]の二つのテストから、「选举(選挙する)」を活動動詞に分類できることが分かる。

(19) \* 村民们 很/非常 选举 村长。

村人たち とても/非常に 選挙する 村长

(20) 村民们 正在 选举 村长。

村人たち PROG 選挙する 村长

‘村人たちが村長選挙を行っている。’

(21) \* 村民们 一个星期 选举 村长。

村人たち 一週間 選挙する 村长

(22) 村民们 选举 村长 选举 了 一个 星期。

村人たち 選挙する 村长 選挙する PERF 一週間

‘村人たちが村長選挙を一週間行った。’

## [2]到達動詞の例

(23)は「牺牲(犠牲になる)」述部とする単文である。「牺牲」は「牺牲时间(時間を犠牲する)」のような他動詞用法もあるが、集めた「由」構文の例文は自動詞文であるため、自動詞としての「牺牲(犠牲になる)」をテストする。程度副詞「很/非常(とても/非常に)」を加えた(24)は自然ではない。進行相を表す副詞「正在」を加えた(25)も不自然である。前置時間詞「一日」を加えた(26)は成立可能で、兵士が前線に立ち、ただ一日で死んだことを表す。後置時間詞を加えた(27)も自然であり、「兵士

が死んでから一年経った」を表す。つまり、(27)からは死ぬという状態の継続が読まれる。[前置時間詞][後置時間詞(状態継続)の二つのテストから、「犠牲(犠牲になる)」を到達動詞に分類することができる。

- (23) 士兵 犠牲 (了)。  
兵士 犠牲になる (PERF)  
‘兵士が亡くなりました。’
- (24) \* 士兵 很/非常 犠牲。  
兵士 とても/非常に 犠牲になる
- (25) \* 士兵 正在 犠牲。  
兵士 PROG 犠牲になる
- (26) 士兵 一天 就 犠牲 了。  
兵士 一日 すぐ 犠牲になる PERF  
‘兵士は一日でなくなった。’
- (27) 士兵 犠牲 了 一年。  
兵士 犠牲になる PERF 一年  
‘兵士が亡くなってから一年になった。’

### [3]達成動詞の例

(28)は「组织(組織する)」を述部とする単文である。程度副詞「很/非常(とても/非常に)」を加えた(29)は不自然である。進行相を表す副詞「正在」を加えた(30)は成立可能で、研究グループが正式に編成される前に、大学側がメンバーを募集していることを表す。前置時間詞「三日間」を加えた(31)は成立可能で、大学が三日で研究グループを編成したことを表す。後置時間詞を加えた(32)も自然であり、大学が研究グループの編成に着手したが、三日経っても、メンバーがまだ決まっていないことを表す。つまり、(32)は「人員配置を検討する」という動作の継続を表す。[正在][前置時間詞][後置時間詞(動作継続)]の三つのテストから、「组织(組織する)」を達成動詞に分類することができる。

- (28) 大学 组织 研究团队。  
大学 組織する 研究グループ  
‘大学が研究グループを組織する。’
- (29) \* 大学 很/非常 组织 研究团队。  
大学 とても/非常に 組織する 研究グループ



- (30) 大学 正在 组织 研究团队。  
 大学 PROG 組織する 研究グループ  
 ‘大学が研究グループを組織している。’
- (31) 大学 三天 就 组织了 研究团队。  
 大学 三日 すぐ 組織する PROG 研究グループ  
 ‘大学が三日間で研究グループを組織した。’
- (32) 大学 组织 研究团队 组织 了 三天。  
 大学 組織する 研究グループ 組織する PROG 三日  
 ‘大学が研究グループを組織しようとしてから三日になった。’

#### [4]状態動詞の例

考察した例文のうち、状態動詞をとるものは一例もなかった。

表 3 本章で調査した「由」構文がとる 4 種類の動詞の数

	延べ語数	異なり語数
状態動詞	0	0
活動動詞	112	56
到達動詞	4	4
達成動詞	102	73
合計	218	120

表 3 は各タイプの動詞の延べ語数と異なり語数を示している。表 3 から分かるように、「由」構文は必ずしも達成性のある動詞をとるわけではない。郭(1993)、Tian (2009)は中国語では活動動詞が最も多いと指摘している。延べ語数から見ると、「由」構文もこの傾向を反映している。ただし、興味深いのは、異なり語数を見ると、逆に達成動詞が多く出現している。謝(1999)の分析に当てはまらない例もあるものの、「由」構文と達成動詞の相性が良いことが分かる。また、「由」構文の語彙的アスペクトについてもう一つ言える特徴は、「由」構文は状態動詞と到達動詞をとりにくいことである。この 2 種類の動詞と達成動詞および一部の活動動詞の一つの違いは相手に及ぶかどうかである。相手に及ばない状態動詞と到達動詞は「由」構文に入りにくい。呂(1985)が指摘する『『由』構文の述語動詞は他の人・物に及ぶ動作動詞である』という特徴がこの調査結果に反映している。

### 3.4 「由」構文に見られるアスペクトシフト

文脈において、動詞の語彙的アスペクトが変わることをアスペクトシフトという。このような現象は

「由」構文においても見られる。

(33)のような活動動詞が文脈において達成動詞となる例が存在する。

(33) 日 前 的 四 場 音 乐 会 就 是 由 该 栏 目 的  
前 日 の 四 つ コ ン サ ー ト 強 調 [副 詞] COP 由 この 番 組 の  
主 持 人 和 节 目 监 制 分 别 主 持 的。 (CCL)  
司 会 者 と プ ロ デ ュ ー サ ー そ れ ぞ れ 主 宰 する 述 語 化

‘前日の四つのコンサートはそれぞれこの番組の司会者とプロデューサーが主宰した。’

前述した通り、「主持(主宰する)」は活動動詞である。しかし、(33)では、述語動詞「主持(主宰する)」の対象は「4つのコンサート」であり、具体的な数字に修飾される名詞である。このような量化された名詞との組み合わせによって、人の行動によりコンサートが終了したことが文に含意されている。そのため、(35)における「主持(主宰する)」は達成動詞と見なすことが可能だと思われる。

Dowty (1979)は Vendler (1964)の分類に対応する語彙分解の標示を提案した。各事象の意味構造は(34)に例示するかたちで表される。

(34) 状態:pred'(x,(y))  
動作:do'(x,(y))  
到達:BECOME pred'(x,(y))  
達成:[do'(x,(y))]CAUSE [BECOME pred'(y,(z))]

Dowty (1979)の意味構造を借りて説明すれば、(35)の「主持(主宰する)」は(35a)のような活動事象の意味構造でなく、(35b)のような達成事象の意味構造である。

(35) a. 主宰する'(主宰する,コンサート)  
b. [主宰する'(主宰する,コンサート)]CAUSE [BECOME 終了する'(コンサート)]

### 3.5 まとめ

本章は語彙的アスペクトの観点から「由」構文がとる述語動詞タイプについて論じた。「由」構文は主に活動動詞と達成動詞をとり、到達動詞をとりにくい。調査した限り、「由」構文は状態動詞をとらない。興味深いのは、延べ語数を見ると、活動動詞が最も多い一方、異なり語数を見ると、達成動詞が最も多い。また、動詞が「由」構文に入ると、アスペクトシフトの現象が発生する場合があります、活動動詞が達成動詞となる例が確認された。

#### 4. 「由」構文の他動性分析

##### 4.1 他動性の定義

他動性とは、「自動詞文との関係を含めて、他動詞文に関する文法現象一般を指す」(角田 2009)。時代と研究者によって、その定義が変わっている。伝統的に、他動性は次のように規定されている。

(37) i. 他動詞文には目的語がある。動作が主語から目的語に向かう。

ii. 自動詞文には目的語がない。動作は何にも向かわない。 (角田 2009:67)

この定義から分かるように、伝統的に他動性は主に動詞の性質である。1970年代後半から研究の進展とともに、他動性の定義が広くなり、様々な側面が考慮されるようになった。Hopper & Thompson (1980)(以下 H&T と略す)はその中の代表的な研究として、この 40 年の他動性研究に影響を与えている。H&T (1980)によると、他動性は表 4 に示す 10 のパラメータからなる文法現象である。各パラメータについて「他動性が高い」と評価される特徴と「他動性が低い」と評価される特徴を「高い」と「低い」の列に示す。

表 4 他動性のパラメータ<sup>5</sup>

パラメータ	高い	低い
A.参加者	2 以上:動作者と対象	1
B.動作様態	動作	非動作
C.アスペクト	動作限界あり	動作限界なし
D.瞬間性	瞬間	非瞬間
E.意図性	意図的	非意図的
F.肯定	肯定	否定
G.現実性	現実	非現実
H.動作主性	高い	低い
I.受影性	全体的に影響	部分的に影響
J.個性性	高い	低い

伝統的な定義と違い、H&T (1980)の他動性は動詞だけでなく、節全体の性質である。王(1997)、屈(2001)、張(2001)、劉(2018)、孔(2020)などは、H&T (1980)の定義を用いて、中国語の様々な構文について研究が行われてきた。次に各パラメータを説明し、「由」構文の他動性を分析する。

<sup>5</sup> ここで、H&T (1980)が提案する他動性の各パラメータの日本語訳は角田(2007)にあるものを採用する。

## 4.2 分析

この 10 のパラメータは文(節)に関わるもの、動作主に関わるもの、動作対象に関わるもの、動詞に関わるものの 4 つのグループに分けられる。意図性と動作主性は動作主に関わる。受影性と個性性は動作対象に関わる。動作様態、アスペクトと瞬間性は動詞に関わる。参加者、肯定と現実性は文(節)に関わる。本節はグループ別に「由」構文における他動性のパラメータを分析していく。

### 4.2.1 文(節)に関わるパラメータ

#### 4.2.1.1 参加者

参加者は主に動作主と対象である。参加者が 2 人以上のとき、他動性が高い。参加者が 1 人だけのとき、他動性が低い。

H&T (1980)は A 動作主と O 目的語という用語を使用した。彼らが注に書いたように、この O は事実上動作の受け手であり、P 対象である。しかし、この表記は誤解を招いた。これまでの中国語研究には、A/O を主語/目的語として捉える立場と動作主/対象として捉える立場がある。つまり、P を統語的に分析するかそれとも意味的に分析するかという立場の違いである。その結果、同じ構文に対する分析結果も違っている。王(1997)は A/O を主語/目的語としている。そうすると、受動文である「被」構文の主語は文頭に来る対象である。動作主は現れないあるいは受動マーカである前置詞「被」に後に置かれ前置詞句となるため、目的語と認められない。このように分析すると、対象に関するパラメータ、参加者、受影性、個性性に関して、「被」構文は常に低い他動性を示す。したがって、「被」構文は他動性がかなり低い構文となる。屈(2001)、劉(2018)は A/O を動作主/対象としている。彼らによると、「被」構文は他動性が比較的高い。王(1997)の分析では、(38)は主語「私」があるが、目的語がなく、参加者が 1 人である。屈(2001)、劉(2018)の分析では、(38)は動作主が「彼」であり、対象が「私」であり、参加者が 2 人である。

(38) 我 被 他 打 了。

私 被 彼 毆 的 PERF

‘私が彼に殴られた。’

後者の分析は言語事実に適しているし、H&T(1980)の原意を損なわないと考えられるから、本稿も屈(2001)、劉(2018)と同じ立場で、A/O を動作主/対象とする。また、参加者がゼロ照応である場合、ゼロ照応の部分に照応される名詞句を補うことにより非文にならない場合、参加者を 2 人とみなす。劉(2018)は、関係節に対して、関係節に修飾される名詞が意味的にその関係節の動詞の対象であっても、参加者として認めない。しかし、そうすると、また意味と形式が混淆する。したがって、

本稿では、関係節に対して、意味上の動作対象が文中にあれば、参加者が2人であることとする。  
次は「由」構文の参加者について分析する。

[1]参加者が2人以上

「由」構文は参加者が主に2人以上である。考察した例文のうち、93.3%は参加者が2人以上である。

- (39) 1998年 初、 《計算科学導論》 由 科学出版社 正式  
1998年 はじめ 『コンピュータサイエンス入門』 由 科学出版社 正式  
出版。 (CCL)  
出版する  
‘1998年年初、『コンピュータサイエンス入門』は科学出版社によって正式に出版された。’
- (40) “林火 监测、 信息 传输 系统” 由 电子部 第54所 研制  
山火事 観測 情報 伝達 システム 由 電子部 第54研究所 開発する  
成功 并 投入 正常 运用。 (CCL)  
成功 そして 入れる 正常な 使用  
‘「山火事観測・情報伝達システム」は電子部第54研究所に開発され、正常に稼働している。’
- (41) 该 调查组 由 一名 将领 指挥, 其 成员 包括  
この 調査チーム 由 一名 将軍 指揮する その メンバー 含む  
军事人员、 政府 情報 分析人员、 民间 科学家 及 私营  
軍事人員 政府 情報 アナリスト 民間 科学者 と 私营  
承包商 等。 (CCL)  
請負商人 など  
‘この調査チームは将軍によって指揮されている。そのメンバーには軍人、政府の情報アナリスト、民間の科学者と請負業者が含まれている。’
- (42) 本 文件 由 DragoneseHTMLWizard1.0 生成。 (CCL)  
この ファイル 由 プログラム 作成  
‘このファイルはDragoneseHTMLWizard1.0によって自動作成された。’
- (43) 由 北京 故宫博物院 等 单位 举办 的 第九届 国际 清史  
由 北京 故宫博物院 など 機関 開催する の 第九回 国際 清史

研讨会 暨 故宫博物院 75 周年纪念 日前 在 北京 举行。(CCL)

讨论会 及び 故宫博物院 75 周年纪念 先日 で 北京 行う

‘北京故宫博物院などの機関が開催する第九回国際清史シンポジウムおよび故宫博物院開館 75 周年記念は先日北京で行われた。’

(39)の参加者は本と出版社である。(40)の参加者はそのシステムと研究所である。(41)の参加者は指揮者と調査チームである。(42)の参加者はファイルとプログラムである。(43)の参加者は故宫博物院などの機関とシンポジウム/開館記念である。

[2]参加者が 1 人

参加者が 1 人である「由」構文もある。参加者が 1 である例文は 2 つのタイプに分けられる。1 つのタイプは(44)のように、「由」構文の述語動詞が動詞-名詞型の複合動詞の文である。このような動詞は動作対象を含んでいるが、複合語として定着しているので、一般的に 1 つの動詞と認識されている。もう 1 つのタイプは(45)のように、「由」構文の述語動詞が自動詞の文である。

(44) 在 调查 取证 时, 可以 询问 原案 被告人、被害人 和  
に 调查 証拠捜し とき できる 尋ねる 事件 被告 被害者 と  
証人, 并 制作 《刑事申诉复查笔录》, 经 被调查人 确认  
証人 そして 作る 『刑事控訴審査記録』 通じる 被調査者 確認  
无误 后, 由 其 签名 或 盖章。(CCL)  
間違いない 後 由 彼 サインする あるいは 捺印する

‘調査と証拠捜しのとき、事件の被告、被害者、証人に尋ね、『刑事控訴審査記録』を作成することができる。被調査者はそれが間違いないと確認した後、サインあるいは捺印する。’

(45) 这个人 永远 不 改 男性 沙文主义, 他 认为 政治  
この人 永遠に NEG 変える 男性 ショービニズム 彼 思う 政治  
应该 由 男人 去 牺牲。(CCL)

べき 由 男 行く 犠牲になる

‘この人はいつも男性至上主義で、(何もかも男がやるべきとっていて、たとえ死でも)政治において男が犠牲になるべきだと思っている。’

(44)の参加者は動作主の被告人/被害者/証人である。(45)の参加者は動作主の男である。この「政治」は場所名詞と考えられる。

考察した例文のうち、93.3%は参加者が 2 人以上であった。したがって、参加者のパラメータに関

して、「由」構文の他動性は高いと言える。

#### 4.2.1.2 肯定

肯定は節の極性である。節が肯定であれば、他動性が高い。節が否定であると、他動性が低い。

この特徴の判断はより簡単で、「不」「没」「没有」などの否定辞がなければ肯定である。次は「由」構文の肯定(/否定)を分析する。

##### [1]肯定

考察した「由」構文は殆ど肯定文であり、全体の98.2%を占める。前掲した例文はみな肯定文である。

##### [2]否定

考察した例文のうち、否定文は1.8%しかない。

(46) 在 谈 到 侨 联 与 其 它 侨 务 部 门 的 协 调 配 合  
に 語 る に つ い て 華 僑 連 合 会 と 他 の 華 僑 事 務 部 門 の 協 同  
时, 钱 副 总 理 说 侨 务 工 作 不 可 能 是 单 打 一  
と き 钱 副 总 理 言 っ て 華 僑 事 務 工 作 不 可 能 是 单 独 行 動  
的, 不 可 能 由 一 个 部 门 来 包 揽。 (CCL)  
述 語 化 不 可 能 由 一 个 部 门 来 全 部 担 当 的

‘華僑連合会と他の華僑事務部門との協同について語るとき、錢副総理は、華僑事務は単独行動でできない仕事で、一つの部門が華僑事務を全部担当するのは無理だといった。’

(47) 要 把 不 应 由 政 府 行 使 的 职 能 逐 步 转 给  
必 需 对 格 不 可 能 由 政 府 实 行 的 的 职 能 段 々 与 渡 给  
企 业、 市 场 和 社 会 中 介 组 织。 (CCL)  
企 業 市 場 と 社 会 仲 介 者

‘政府は実行すべきではない機能を企業、市場、社会の仲介者に渡す必要がある。’

(46)と(47)では、「由」の前に否定辞「不」がある。(47)の文は主節が肯定文であるが、関係節である「由」構文は否定である。

考察した例文のうち、98.2%は肯定文であった。したがって、肯定のパラメータに関して、「由」構文の他動性は高いと言える。

#### 4.2.1.3 現実性

現実性は現実と非現実の区別である。実際に起こった動作、現実存在する動作そして進行中の動作は現実的であり、他動性が高い。実際に起らなかった動作あるいは非現実的な世界に起った動作は非現実的であり、他動性が低い。

H&T (1980)は仮定、想像、願望、条件などを表す事象も非現実としている。張(2008、2009、2012)は中国語の非現実範疇に関して詳しく論じている。彼女によれば、譲歩、可能、疑問、未来、義務、能力、習慣などの表現も非現実的である。ただし、習慣の表現は現実存在するので、本稿では習慣の表現を現実的とする。次は「由」構文の現実性を分析する。

##### [1]現実的

大部分の「由」構文は現実的な事象を表す。考察した例文のうち、89.4%は現実である。

- (48) 新文豊出版公司本 是 由 台湾中华道教会 于 1957 年  
新文豊出版公司本 COP 由 台湾中華道教会 に 1957 年  
开始 编印, 1977 年 印 成。(CCL)  
始める 編集 1977 年 印刷 なる

‘新文豊出版公司本は台湾中華道教会によって1957年から編集が開始され、1977年に出版された。’

- (49) 本次 比赛 是 由 北京航空航天大学 和 广西玉柴机器股份有限公司  
今回 試合 COP 由 北京航空航天大学 と 広西玉柴株式会社  
承办 的。(CCL)  
開催する 述語化

‘今回の試合は北京航空航天大学と広西玉柴株式会社によって開催されている。’

- (50) 国内 大学 是 按 计划 办 的, 从 招生  
国内 大学 COP による 計画 運営する 述語化 から 学生の募集  
到 分配 都 由 教委 负责。(CCL)  
まで 就職先の指定 皆 由 教育委員会 担当する

‘国内の大学は計画的に運営され、学生の募集から就職先の指定までは教育委員会が担当している。’

- (51) 被 判处 管制 的 犯罪分子, 由 公安机关 执行。(CCL)  
PASS 判決する 管制処分 の 犯罪者 由 警察機関 実行する

‘管制処分に処せられる犯罪者に対しての管制処分は警察機関が実行する。’



(48)では、本の編集と印刷は過去に起こった出来事である。(49)では、試合は進行中の出来事である。(50)では、教育委員会が学生を募集したり、就職先を指定したりするのは現実に存在する出来事である。(51)は中国刑第三十八条の一部であり、法律が施行されるので、現実的な存在と考えられる。

## [2]非現実的

非現実を表す「由」構文は少ない。

- (52) 《如何成为一个高级管理人员》，唐庆华 著，即将 由 三联书店  
『高級管理者になる方法』 唐慶華 著 近日 由 三聯書店  
出版。 (CCL)

出版する

‘唐慶華『高級管理者になる方法』は近日三聯書店から出版される。’

- (53) 小孩子 如此，我们 大人 也是 如此。我们 也  
子供 そう 私たち 大人 も COP そう 私たち も  
得 由 保甲长 领着 去 站班。 (CCL)

なければならない 由 保甲長 連れる PROG 行く 見張りに立つ

‘子供たちはそう、私たち大人もそうだ。私たちが保甲長に連れられて、見張りに立たなければならない。’

- (54) 否则 若 股民 依 此 财务信息 决策 失误， 责任  
そうしないと もし 投資者 よる この 財務情報 決定 間違える 責任  
由 谁来 负 就 很难 说 清楚了。 (CCL)

由 誰 来る 負う 順接 とても 難しい いう はっきり 語気助詞

‘そうしないと、もし投資者がこの財務情報によって決定を間違えたら、誰が責任を負うかを明確にすることは難しくなる。’

(52)は未来を表す「即将(まもなく)」を伴う。(53)は義務を表す「得(しないといけない)」を伴う。(54)では、「由」構文の節は動作主が Wh 疑問詞「谁(誰)」である。

考察した例文のうち、89.4%は参加者が現実的であった。したがって、現実性のパラメータに関して、「由」構文の他動性は高いと言える。

## 4.2.2 動作主に関わるパラメータ

### 4.2.2.1 意図性



独立の科学組織 ICNIRP 制定する PERF これら 基準

‘独立科学組織 ICNIRP はこれらの基準を制定した。’

d. \* 这些 规范 是 由 独立的 科学 组织 ICNIRP

これら 基準 COP 由 独立の 科学 組織 ICNIRP

有意地 制定 的。

わざと 制定する 述語化

e. \* 由 独立的 科学 组织 ICNIRP 有意地 制定 了

由 独立の 科学 組織 ICNIRP わざと 制定する PERF

这些 规范。

これら 基準

f. 独立的 科学 组织 ICNIRP 有意地 制定 了 这些 规范。

独立の 科学 組織 ICNIRP わざと 制定する PERF これら 基準

‘独立科学組織 ICNIRP はわざとこれらの基準を制定した。’

張(2004)によると、「由」構文では、行為は動作主の意志ではなく、誰かに要求されたというニュアンスが含まれる。(56)を例とすると、「由」構文の(56a)、(56b)では、ICNIRP がこれらの基準を作った裏には業界の要求があるはずである。それに対して、無標文の(56c)では、ICNIRP がこれらの基準を自発的に作ったという解釈もあり得る。呂(1985)、謝(1999)などによると、「由」構文は事象に対する客観的な描写である。「由」構文は参加者ではなく、話し手・書き手の視点から事象を語ると考えられる。(56b)が言えるのは、この文において話し手が参加者に等しいからだと考えられる。

考察した例文は殆どが非意図的であった。したがって、意図性のパラメータに関して、「由」構文の他動性は極めて低いと言える。

#### 4.2.2.2 動作主性

動作主性は、他動詞主語が動作を伝達するものとして解釈されやすいかどうかということである。動作主性が高い他動詞主語は動作の伝達を行うものと解釈されやすいが、動作主性が低い他動詞主語は動作の伝達を行うものと解釈されにくい。H&T (1980)は、この尺度の説明において述語が同じ George startled me (ジョージが私をビックリさせた)と The picture startled me (私はその絵にビックリした)という2つの文を示し、前者は目に見える出来事であるのに対し後者は内的な状態を表すとしている。「ジョージ」は動作の伝達(この場合「驚かし」)を行うもの、すなわち動作主と解釈されるのに対して、「その絵」は感情の対象と解釈される。

H&T (1980)によると、動作主性は、第三人称代名詞、固有名詞、人間名詞、無生物の順番に低くなり、連続体をなすパラメータである。Thompson & Hopper (2001)は有生性を動作主性の判断基準としている。有生物は動作主性が高く、他動性も高い。無生物は動作主性が低く、他動性も低い。操作性を考えるうえで、本稿は Thompson & Hopper (2001)に従う。次は「由」構文の動作主性を考察する。会社、政府、学校、社会团体など人間の集合を表す名詞も有生物と見なす。次は「由」構文の動作主性を分析する。

[1]動作主性が高い

「由」構文の動作主は主に有生物である。考察した例文のうち、89.8%は動作主が有生物であり、動作主性が高い。

- (57) 发动 农民 大 种 适销对路 的 经济作物, 由  
动员する 農民 多く 植える 売れ行きがよい の 経済作物 由  
他 統一 收购。 (CCL)  
彼 一括 買収する

‘彼が農民を動員し、売れ行きがよい作物を植えさせた。そして彼が一括買収する。’

- (58) 这部 大辞典 是 由 韩国 高丽大学 民族文化研究所  
この 大辞典 COP 由 韓国 高麗大学校 民族文化研究所  
编纂 的。 (CCL)  
編纂する 述語化

‘この大辞典は韓国の高麗大学校によって編纂された。’

- (59) 这些 由 各地 的 区、街道、居委会 组织 的 活动, 为  
これら 由 各地 の 区 町 町内会 組織する の イベント に  
群众 提供 了 自娱自乐、健康文明的 活动 场所。 (CCL)  
大衆 提供する PERF 娯楽 健全な 活動 場所

‘これら各地の自治体によって行われたイベントは大衆に健全な娯楽施設を提供した。’

(57)の動作主「彼」は人称代名詞である。(58)の動作主は研究機関であり、(59)の動作主は自治体である。これらの動作主は人間の集合であるため、有生物とする。

[2]動作主性が低い

考察した例文のうち、動作主が無生物で、動作主性が低い「由」構文は1割しかない。

- (60) 语言 表述 体系, 由 多 方面 的 因素 构成。 (CCL)

言語 表現 システム 由 多い 方面 の 要素 構成する

‘言語表現システムは多種多様な要素から構成されている。’

- (61) 有 经济学家 认为, 英国 长期 以来 由 消费热 带来  
ある 経済学者 考える イギリス 長期 以来 由 消費ブーム もたらす  
的 市場繁栄 很 大 程度 上 是 一种 假象。 (CCL)  
の 景気 とても 大きい 程度 上 COP 一種 幻影  
‘一部の経済学者は、長い間のイギリスの消費ブームによる景気は真実ではないと信じている。’

(60)の動作主「要素」、(61)の動作主「消費ブーム」はともに無生物である。

考察した例文のうち、89.8%は動作主性が強かった。したがって、動作主性のパラメータに関して、「由」構文の他動性は高いと言える。

#### 4.2.3 動作対象に関わるパラメータ

##### 4.2.3.1 受影性

受影性は対象が受ける影響の度合いである。対象が全体的に影響を受けると、他動性が高い。対象が部分的に影響を受けると、他動性が低い。

このパラメータに対して、劉(2018)は次のように述べた。i.対象に確実に見える変化が起こるときに限り、対象が全体的に影響を受ける。ii.動詞が結果補語、モダリティ補語、方向補語を伴う場合、対象は全体的に影響を受ける。<sup>6</sup>動詞が程度補語を伴う場合、対象は全体的に影響を受ける場合もあるし、部分的に影響を受ける場合もある。iii.対象が全体的に影響を受けるとき、文は通常完了相である。iv.否定文の対象は通常影響を受けない。以上の下線部は判断基準として一部の文の受影性を直接判断することができるが、もっと多くの文に対して個別的な意味分析が必要である。次は「由」構文の受影性を分析する。

[1]全体的に影響を受ける

「由」構文は対象が全体的に影響を受ける場合が多い。考察した例文のうち、28%が対象が全体的に影響を受ける文であった。

- (62) 首次 从 全社会 范围 排定 的 “中国 物资流通  
初めて から 全社会 範囲 リストアップする の 中国 物流  
百强 企业” 名单 已 由 国内贸易部、 国家统计局 于

<sup>6</sup> 下線部は筆者による。以下同様。

トップ 100 企業 リスト すでに 由 国内貿易部 国家統計局 に  
4月 26 日 聯合 发布。 (CCL)

4月 26 日 合同 公表する

‘4月 26 日、初めて全国規模からリストアップされた『中国物流会社トップ 100』リストは  
国内貿易部と国家統計局によって公表された。’

(63) 新 内閣 由 19 名 部長 组成, 5 名 新人 入閣。 (CCL)

新しい 内閣 由 19 名 大臣 構成する 5 名 新人 入閣する

‘新しい内閣は大臣 19 人から構成される。そのうちの 5 人は初入閣。’

(64) 据悉, 西九龍 直升机场 初步 可供 使用 至

伝聞により 西九龍 ヘリポート 現段階 可能 提供する 使う まで

2005 年 年底, 由 港联直升机有限公司 经过 投标 竞 得

2005 年 年末 由 港聯ヘリコプター有限公司 通じる 入札 競う 得る

发展 和 管理 权。 (CCL)

發展 と 管理 権限

‘聞いたところによると、今西九龍ヘリポートは 2005 年末まで使える。港聯ヘリコプター  
有限公司は入札でその開発権と管理権を得た。’

(62)では、対象の企業リストは政府機関によって非公開から公開になる。(63)では、対象の内閣  
が新しく組織され、元内閣から現内閣となる。また、この文の述語動詞は結果補語「成(なる)」を伴う。

(64)では、対象の権限は所有者が変わる。これらの対象に変化が起こる。

[2]部分的に影響を受ける

(65) 毎年 一届 的 “李宁杯” 全国 体操 赛 年年 由 “健力宝”

毎年 一回 の 李寧杯 全国 体操 試合 毎年 由 健力宝

贊助。 (CCL)

贊助する

‘年に一回の『李寧杯』全国体操大会は毎年健力宝会社に贊助される。’

(66) 本次 比赛 是 由 北京航空航天大学 和 广西玉柴机器股份有限公司

今回 試合 COP 由 北京航空航天大学 と 広西玉柴株式会社

承办 的。 (CCL)

開催する 述語化

‘今回の試合は北京航空航天大学と広西玉柴株式会社によって開催されている。’

(65)では、対象の体操大会が受ける影響(賛助)は続いている。このスポンサーからの影響(賛助)はまだ終わっていないので、部分的な影響である。(66)も同様に、試合はまだ終了していないため、主催者からの影響は部分的である。

考察した例文のうち、28%は対象が全体的に影響を受ける。したがって、受影性のパラメータに関して、「由」構文の他動性は低いと言える。

#### 4.2.3.2 個性

個性は対象と動作主との区別、および対象とその背景との区別である。具体的には5つの意味的特徴に関わる。それは「固有/普通」「有生/無生」「単数/複数」「可算/不可算」「指示・定/非指示」である。その中、最も重要な意味的特徴は「指示・定/非指示」である。H&T (1980)が対象の個性を判断するとき、「指示・定/非指示」を基準とし、採点を行っている。ある節の対象が[+指示的][+定]である場合は、2点を与える。単に[+指示的]あるいは[+定]であるときは、1点を与える。[+非指示的][+不定]であれば、0点を与える。この採点方法から分かるように、個性も連続体となすパラメータである。

指示性について、陳(1987)、張(1997)、王(2004)などは、談話における実在物(entity)を表す名詞句が指示的である一方、実在物を表せないが非指示的としている。王(2004)によると、実在物を表せないものとは、(67)のような名前を表す名詞と(68)～(71)のような属性を表す名詞である。

(67) a. 同事们 都 叫 他 小王。  
同僚たち 皆 呼ぶ 彼 王くん  
‘同僚たちは彼を王くんと呼んでいる。’

b. 他 的 名字 是 王明。  
彼 の 名前 COP 王明  
‘彼の名前は王明だ。’

(68) a. 红木衣柜(マホガニーの衣装棚)、塑料袋(ビニール袋)、铁锅(鉄造の鍋)、纸杯(紙コップ)

b. 酒桶(酒樽)、煤气罐(ガスタンク)、开水壶(湯桶)

c. 日语老师(日本語教師)、足球运动员(サッカー選手)、桥梁工程师(橋梁技術者)

(69) a. 鲁迅 浙江人。 (王 2004:19)  
鲁迅 浙江人  
‘鲁迅は浙江人だ。’

b. 今天 星期天。 (王 2004:19)

今日 日曜日

‘今日は日曜日だ。’

(70) 鲁迅 是 作家。

鲁迅 コピュラ 作家

‘鲁迅は作家だ’

(71) 当警卫员(警備員を務める) (王 2004:19)

做丈夫(夫になる)

做佣人(下僕をやる)

兼任省长(省長を兼任する)

担任班主任(担任の先生を務める)

作为中国人(中国人とする)

当作敌人(敵とみなす)

看成英雄(英雄と見なす)

(67)では、下線部は名前を表す名詞である。(68)では、下線部は複合名詞における原材料(68a)、用途(68b)、職業(68c)を表す名詞的修飾成分である。(69)では、下線部は属性を表す述語名詞である。(70)では、下線部はコピュラ文の述部である。<sup>7</sup>(71)では、下線部は何らかの職業に従事していることを表す動詞(以下、この種の動詞を従事動詞と呼ぶ)の目的語となる職務、職業、身分、関係を表す名詞である。これら名前と属性を表す名詞は非指示的とする。また、実在物・非実在物と具体名詞・抽象名詞とは別な概念である(張 1997)。マルクス主義、愛と平和などの抽象名詞が実在物である場合もある。

定性について、陳(1987)、張(1997)、王(2004)などは、定性を実在物こそが持つ意味的特徴と述べている。すなわち、指示的な名詞句だけが定と不定に分けられる。そうすると、「指示・定/非指示」について、一つの名詞には[+指示的][+定]、[+指示的][+不定]、[+非指示的]という三つのパタ

<sup>7</sup> ①と②のような主語と述語が置換できる場合、述語名詞は指示的である。

①a. 他, 我 的 二 弟。 (王 2004:19)

彼 私 の 二 弟

b. 我 的 二 弟, 他。

私 の 二 弟 彼

‘彼、私の二番目の弟だ。’

②a. 鲁迅 是 《孔乙己》 的 作者。

鲁迅 COP 『孔乙己』 の 著者

b. 《孔乙己》 的 作者 是 鲁迅。

『孔乙己』 の 著者 COP 鲁迅

‘鲁迅は『孔乙己』の著者だ。’



ーンが可能である。陳(1987)は名詞句を A.人称代名詞、B.固有名詞、C.这/那(この/その)+普通名詞、D.普通名詞、E.基数詞(+助数詞)+普通名詞、F.一(+助数詞)+普通名詞、G.助数詞+普通名詞の7種類に分けた。彼によると、A、B、Cはいつも定名詞である。F、Gはいつも不定名詞である。D、Eの定性は文脈によるが、いくつかの傾向性が見られる。例えば、主語、「把」構文の目的語、三項動詞の間接目的語などであるとき、D、Eは定名詞である傾向が強い。存在文の目的語、方向補語をとる動補構造の目的語などであるとき、D、Eは不定名詞である傾向が強い。

本稿は前述の先行研究に基づき、「由」構文における対象名詞の指示性と定性を明らかにする。そのうえで、「由」構文における対象名詞の個性性を検討する。ある対象名詞が[+指示的][+定]であるとき、個性性が高いとする。他の場合は個性性が低いとする。以下では、「由」構文の個性性を分析する。

#### [1]個性性が高い

考察した例文のうち、半分以上の例文は対象の個性性が高く、全体の64.3%を占める。

(72) 总数 约 2亿 美元 的 “中国企业发展基金” 近期 由  
総数 約 2億 ドラ の 中国企業開発基金 近日 由  
中国企业基金管理有限公司 投入 运作。(CCL)  
中国企業基金管理有限会社 入れる 稼働  
‘約2億ドラに値する『中国企業開発基金』は近日中国企業基金管理有限会社が運営し始めた。’

(73) 我国 的 高等教育, 基本上 是 由 国家 包揽。(CCL)  
我が国 の 高等教育 基本的に COP 由 国家 全て担当する  
‘我が国の高等教育は基本的に国が全てを担当する。’

(74) 由 我 来 教 你们 赚钱。(CCL)  
由 私 来る 教える あなたたち お金儲け  
‘私があなたたちにお金儲けの方法を教えてあげる。’

(72)では、対象「中国企業開発基金」は固有名詞である。(73)では、対象「高等教育」の前に「我が国の」という修飾成分がある。陳(1987)によると、修飾される普通名詞の定性はその修飾成分に関わる。修飾成分が定であれば、修飾される名詞も一般的に定である。ここでは、「我が国」は定であるから、「高等教育」も定である。(74)では、対象「あなたたち」は人称代名詞である。

#### [2]個性性が低い

(75) 由 一个 内布拉斯加人 担任 秘书。(CCL)

由 一人 ネブラスカ人 務める 秘書

‘あるネブラスカ人が秘書を務める。’

(76) 由 你 来 決定 你 的 人生价值。 (CCL)

由 あなた 来る 決める あなた の 人生の価値

‘あなたがあなたの人生の価値を決める。’

(77) 世界上 多数 国家 的 扶贫活动 都是 由 慈善机构

世界中 多くの 国 の 貧困削減活動 皆 COP 由 チャリティー

发起 的, 而 中国 的 扶贫事业 则 由 各级

開始する 述語化 一方 中国 の 貧困削減活動 順接 由 各レベル

政府 主导。 (CCL)

政府 主導する

‘世界中の多くの国では、チャリティーが貧困削減活動を開始している。それに対して、中国では政府が貧困削減活動を主導する。’

(75)では、対象は職業の名詞で、従事動詞「担任する」の目的語である。(76)では、対象「人生の価値」は人称代名詞「あなた」に修飾されるが、ここに、「あなた」は特定の聞き手・読み手を指すのではなく、この話を聞いたあるいは読んだ全ての人を表す。したがって、この「人生の価値」は人称代名詞に修飾されても不定である。(77)では、一つ目の「貧困削減活動」は「世界中の多くの国」に修飾され、二つ目の「貧困削減活動」は「中国」に修飾される。前者の修飾成分は不定であり、対照となる後者の修飾成分は定である。そのため、一つ目の「貧困削減活動」は不定であり、二つ目の「貧困削減活動」は定である。

考察した例文のうち、64.3%は対象の個性が高かった。したがって、個性のパラメータに関して、「由」構文の他動性はやや高いと言える。

#### 4.2.4 動詞に関わるパラメータ

##### 4.2.4.1 動作様態

動作様態は動作と非動作の対立で、動きが動作主から対象への伝達に関わる。動作様態が動作であれば、動きの伝達が可能であり、他動性が高い。反対に、動作様態が非動作であると、動きが伝達できないため、他動性が低い。

語彙的アスペクトの観点から動作と非動作が区別できると考えられる。述語動詞が状態動詞である場合、動作様態は必ず非動作である。ただし、述語動詞が活動動詞、到達動詞、達成動詞であ

る場合、動作様態は必ずしも動作ではない。活動動詞、到達動詞、達成動詞のなか、「想(思う/考える)」「看作(見なす)」など心的な動きを表す心理動詞は状態動詞ではなくても、非動作動詞である。

次に「由」構文の動作様態を分析する。前章で述べたように、状態動詞は「由」構文に入らない。ここでは主に「由」構文がとる心理動詞を見る。

#### [1]動作

呂(1985)が指摘したように、「由」構文は動作動詞をとる。考察した例文のうち、殆どは動作様態が動作である。

(78) 被 判 处 管 制 的 犯 罪 分 子 ， 由 公 安 机 关 执 行 。 (CCL)  
PASS 判決する 管制処分 の 犯罪者 由 警察機関 実行する  
‘管制処分に処せられる犯罪者に対しての管制処分は警察機関が実行する。’

(79) 几 年 来 自 治 区 的 科 技 成 果 也 大 多 是 他 们  
数 年 以 来 自 治 区 の 科 学 技 術 成 果 也 多 多 多 他 们  
创 造 ， 整 个 自 治 区 的 科 研 、 科 教 、 科 技 开 发 的 架 构  
作 出 出 全 体 自 治 区 の 研 究 教 育 技 術 开 发 の 仕 组 み  
仍 由 他 们 支 撑 ！ (CCL)  
依然として 由 彼ら支える  
‘過去数年間、自治区の科学技術の成果のほとんどは彼らによって出されており、自治区全体の科学研究、科学と教育、および技術開発の仕組みは依然として彼らによって支えられている。’

(80) 大 家 商 定 ， 第 二 天 早 6 时 半 由 玛 丽 敲  
み ン ン 話 し 合 っ 決 め る 翌 日 朝 6 時 半 由 メ ア リ ー ノ ッ ク す る  
各 房 門 叫 早 ， 7 时 随 文 森 特 去 挤 奶 。 (CCL)  
各 ド ア 呼 び 覚 め ます 7 時 つ ぐ ヴ ィ ン セ ン ト 行 く 乳 搾 り  
‘翌朝6時半、メアリーがみんなの部屋のドアをノックして、みんなを呼び覚ます。そして、7時、ヴィンセントと一緒に乳搾りに行く、とみんなが話し合って決めた。’

(78)(79)(80)の述語動詞はそれぞれ「执行(執行する)」「支撑(支える)」「敲(ノックする)」である。これらの動詞には、動作主の「公安机关(警察機関)」「他们(彼ら)」「玛丽(メアリー)」から対象の「犯罪分子(犯罪者)」「科研、科教、科技开发的架构(研究、教育、開発の仕組み)」「房门(ドア)」へ、動きの伝達が明瞭だと考えられるため、動作様態が動作であり、他動性が高い。

## [2]非動作

考察した例文のうち、1例だけは心理動詞をとる。

- (81) 企業 在 市場 上 能否 生存, 由 自己 去 想。 (CCL)  
企業 で 市場 上 可能かどうか 生きる 由 自分 行く 考える  
‘企業が市場で生存できるかどうかは企業自身が考えることだ。’

(81)の「由」構文の部分は2つの述語動詞「想(考える)」は心理動詞であり、動作様態が非動作であり、他動性が低い。

考察した例文のうち、99.9%は動作的である。したがって、動作様態のパラメータに関して、「由」構文は他動性が高いと言える。

### 4.2.4.2 アスペクト

この場合のアスペクトは、動作の終点を視座として動作を見た場合の動作限界の有無を指す。動作限界がある(telic)動作は他動性が高い一方、動作限界がない(atelic)動作は他動性が低い。

林・韓(2009)は中国語における動作限界の表現形式に関する研究である。林・韓(2009)によると、中国語では、(82)のような動詞に結果補語の付加、(83)のような名詞の量化、(84)のような動詞の量化により動作限界があることを表す。単に「做(やる)」「讲(説く)」「吃(食べる)」「睡(寝る)」「学习(勉強する)」は動作限界のない動作であるが、結果補語と量化により、句レベルで動作限界のある動作となる。

- (82) a. 做 完 作业 (林・韓 2009:19)  
やる 終わる 宿題  
‘宿題をした’

- b. 讲 清 道理 (林・韓 2009:19)  
説く 明らかに 道理  
‘道理を解明する’

- (83) 吃 一个 苹果 (林・韓 2009:20)  
食べる 一個 りんご  
‘りんごを一個食べた’

- (84) a. 睡 两天 (林・韓 2009:21)  
寝る 二日  
‘二日間寝た’

b. 学习 三年

(林・韓 2009:21)

勉強する 三年

‘三年間勉強した’

劉(2018)、孔(2020)は他動性のパラメータの aspekto について、次のような基準を提案した。ある動作は終点がある、かつ完了した、かつ対象が定名詞である場合、動作限界がある。したがって、(85)のように、ある動作が非完了であれば、形式的に限界があるとしても、動作限界がないと考えられる。

(85) 他 每天 吃 一个 苹果。

彼 毎日 食べる 一个 りんご

‘彼は毎日りんごを一個食べる。’

次に「由」構文の aspekto を分析する。

[1]動作限界あり

考察した例文のうち、動作限界があるものが 38.9%あった。

(86) 本次 比赛 是 由 中国男排 元老队

今回 試合 COP 由 中国男子バレーボール 退役選手チーム

主办, 北京 西城区 体委 承办。 (CCL)

主催する 北京 西城区 体育委員会 協力する

‘今回の試合は元男子バレーボール中国代表が主宰し、北京市西城区体育委員会の協力を得た。’

(87) 由 天磁公司 和 天津医科大学 联合 研制 开发 的

由 会社名 と 天津医科大学 共に 研究する 開発する の

天海力营养液 最近 面市。 (CCL)

商品名 最近 市場に出る

‘天磁会社と天津医科大学が共同開発した天海力栄養液は最近市場に出た。’

(88) 化石 都 由 海中 生物 形成, 动物 中 最 多 的 是

化石 全て 由 海の中 生物 なる 動物 中 最も 多い の COP

三叶虫, 植物 中 只 有 藻類。 (CCL)

三葉虫 植物 中 だけ ある 藻類

‘化石は全て海の中の生物からなる。動物のなか、一番多いのは三葉虫で、植物は藻類しかない。’

(86)では、試合が終わったことは文脈から分かる。試合が終わったため、終点がある。対象の「今回の試合」も定である。したがって、(86)は動作限界がある。(87)では、製品の開発は完了した。開発が終わったから、終点がある。対象の商品は固有名詞であり、定である。したがって、(87)は動作限界がある。(88)では、海の中の生物は化石になった後、もはや生物(の残骸)ではない。そのため、この動作には起点と終点がある。ただし、起点と終点が重なっている。したがって、(88)は動作限界がある。

#### [2]動作限界なし

考察した例文のうち、大部分は動作限界がない。

(89) 由 政府 発行 一元 紙幣。 (CCL)

由 政府 発行する 1元 紙幣

‘政府が1元の紙幣を発行する。’

(90) 省 已 決定 成立 优质农产品开发领导小组,

省 すでに 決める 成立する 高品質農産物開発リーダーグループ

由 主管省长 和 秘书长 牵头。 (CCL)

由 省長 と 秘書長 担当する

‘省は高品質農産物開発グループを設置することを決めた。このグループは省長と秘書長が担当する。’

(89)では、政府が貨幣を発行するという出来事は政府の機能として、起点と終点がない。そのため、(89)は動作限界がない。(90)では、「担当する」は未完了の動作で、終点も見えない。したがって、(90)は動作限界がない。

考察した例文のうち、38.9%は動作限界がある。したがって、アスペクトのパラメータに関して、「由」構文は他動性がやや低いと言える。

#### 4.2.4.3 瞬間性

瞬間性は、出来事の開始と終了の間に想定できる過程があるかどうかを指す。例えば、「見る」には一定の過程を想定することができるのに対して、「瞬く」にはそのような過程が想定できない。ある動作にこのような過程がなければ、この動作は瞬間的であり、この文(節)は他動性が高い。ある動作にこのような過程があると、この動作は非瞬間的であり、この文(節)は他動性が低い。H&T(1980)が瞬間性を判断するとき、述語動詞が瞬間動詞かどうかを基準としている。述語動詞が瞬間動詞であれば、瞬間である。述語動詞が継続動詞であれば、非瞬間である。しかし、他動性は文

(節)または談話の特徴として、そのパラメータの一つである瞬間性を判断する際、述語動詞だけを基準とするのは多少妥当性が欠けると考えられる。例えば、(91)において、「決定(決める)」は瞬間動詞とされるが、(92)において、「決定(決める)」という動作は実際に起きておらず、瞬間的といいきくい。したがって、本稿が瞬間性を分析するとき、述語動詞だけに着目するのではなく、文(節)が描く出来事にも着目する。

(91) 我 決定 去 日本 留学。  
私 決める 行く 日本 留学する  
‘私は日本に留学することを決めた。’

(92) 在 一些 小 公司, 老板 決定 一切 事務。  
で 一部 小さい 会社 社長 決める 全て 事務  
‘一部の小さい会社では、社長が全てを決める。’

陳(1988)、瀋(2000)などによれば、述語動詞が瞬間変化動詞、動作動詞であるとき、あるいは動詞重複、「一+動詞」の形で現れるとき、文は瞬間的である。また、述語動詞が結果補語と方向補語を伴う文も瞬間的である。また、劉(2018)は瞬間性を判断するテスト方法を提案した。劉(2018)によると、「突然(突然に/急に)」「立刻(早速)」「马上(すぐ)」「十点(十時)」など瞬間を表す語句と共起でき、「一直(ずっと)」「一整天(一日中)」など継続を表す語句と共起できない節は瞬間的である。逆に、継続を表す語句と共起でき、瞬間を表す語句と共起できない節は非瞬間である。

次に「由」構文の瞬間性を分析する。

#### [1]瞬間的

考察した例文のうち、瞬間的な事象を表すものが 34.2%あった。

(93) 1998 年 初, 《計算科学导论》 由 科学出版社 正式  
1998 年 はじめ 『コンピュータサイエンス入門』 由 科学出版社 正式  
出版。 (CCL)  
出版する  
‘1998 年年初、『コンピュータサイエンス入門』は科学出版社によって正式に出版された。’

(94) 十多年 前, 我 参加 了 由 全国 美容师 组成 的  
十数年前 私 参加する PERF 由 全国 美容師 結成する の  
东南亚 美容 考察团。 (CCL)  
東南アジア 美容 見学团

‘十数年前、私は全国美容師が結成した東南アジア美容見学団に参加した。’

- (95) 这个 真理 及 其 主要 结果, 其中 有 许多 现在 看起来  
この 真理 と その 主な 結果 その中 ある 多い 現在 見える  
是 如此 明显, 最初 是 由 李嘉图 阐明 的。 (CCL)  
COP いかにか 明らか 最初 COP 由 リカード 解明する 述語化  
‘この真理とその主な結果は現在見るといかにかに明らかなものだが、最初はリカードによ  
って解明されたのだ。’

- (96) a. 遇害者 骨灰 已 由 亲属 带 回 国。 (CCL)

被害者 遺灰 すでに 由 家族 持つ 帰る 国

‘被害者の遺灰は家族が持ち帰った。’

- b. 遇害者 骨灰 已 立刻 由 亲属 带 回 国。

被害者 遺灰 すでに すぐに 由 家族 持つ 帰る 国

‘被害者の遺灰は家族がすぐに持ち帰った。’

- c. \* 遇害者 骨灰 已 一直 由 亲属 带 回 国。

被害者 遺灰 すでに ずっと 由 家族 持つ 帰る 国

(93)の述語動詞「出版する」は瞬間変化動詞と考えられ、この動作が発生したとき、「本」が市販になる。(94)の述語動詞「結成する」は結果補語「成(なる)」を伴い、この動詞が発生したとき、「美容師」が個人から集団になる。(95)の述語動詞「解明する」は結果補語「明(明らかにする)」を伴い、その動作が発生したとき、「真理」が理解されるようになる。(96)には瞬間を表す「立刻(すぐ)」を入れることができるが、継続を表す「一直(ずっと)」を入れることができない。

## [2]非瞬間的

考察した例文の大部分は非瞬間的である。(97)、(98)のような継続動詞をとるものの他、(99)、(100)のような、瞬間動詞をとるが、恒常あるいは習慣を表すため、非瞬間的と判断されるものが多数存在する。

- (97) 国内 大学 是 按 计划 办 的, 从 招生

国内 大学 COP による 計画 運営する 述語化 から 学生の募集

到 分配 都 由 教委 负责。 (CCL)

まで 就職先の指定 皆 由 教育委員会 担当する

‘国内の大学は計画的に運営され、学生の募集から就職先の指定までは教育委員会



が担当している。’

- (98) 从 传说 中 神农氏 遍 尝 百草 到 上世纪  
から 伝説 中 神農 全部 嘗める たくさんの植物 まで 前世紀  
初, 五千年 除病济世 的 重任 始终 由 中医 担当。(CCL)  
はじめ 五千年 病を治す の 重任 ずっと 由 中医 行う  
‘神農が百草を嘗めるという伝説から前世紀の初めまで、五千年以来、病を治すという  
重要なことは常に中医によって行われてきた。’

- (99) a. 这种 计划经济 的 特点 在于 由 一个 最高 领导  
このタイプ 計画経済 の 特徴 に 由 一つ 最高 リーダー  
集中 做出 决策。  
集中的に 作る出す 対策  
‘このタイプの計画の特徴は、トップリーダーが集中的に対策を決める。’
- b. ?? 这种 计划经济 的 特点 在于 立刻 由 一个 最高  
このタイプ 計画経済 の 特徴 に すぐに 由 一つ 最高  
领导 集中 做出 决策。  
リーダー 集中的に 作る出す 対策
- c. 这种 计划经济 的 特点 在于 一直 由 一个 最高  
このタイプ 計画経済 の 特徴 に ずっと 由 一つ 最高  
领导 集中 做出 决策。  
リーダー 集中的に 作る出す 対策  
‘このタイプの計画の特徴は、いつでもトップリーダーが集中的に対策を決める。’

- (100) 有 经济学家 认为, 英国 长期 以来 由 消费热 带来  
ある 経済学者 考える イギリス 長期 以来 由 消費ブーム もたらす  
的 市场繁荣 很 大 程度 上 是 一种 假象。(CCL)  
の 景气 とても 大きい 程度 上 COP 一種 幻影  
‘一部の経済学者は、長い間のイギリスの消費ブームによる景気は真実ではないと信  
じている。’

(97)の「负责(担当する)」は一時期に教育委員会による継続した動作である。(98)の「担当(行われる)」は5000年も続いた動作である。(99)は「このような計画経済」の特徴について述べている。この「做出(決める)」は実際に起きた動作ではない。そのため、(99)における動作は非瞬間である。

また、(99)には継続を表す「一直(ずっと)」を入れることができるが、瞬間を表す「立刻(すぐ)」を入れると、「対策を決める」に何らかの前提条件が欠けるように、不自然になる。(100)の「带来(もたらす)」は方向補語「来(来る)」を伴うが、副詞的成分「长期以来(長期的)」から分かるように、これは継続した動作である。

考察した例文のうち、34.2%は瞬間的である。したがって、瞬間性のパラメータに関して、「由」構文は他動性がやや低いと言える。

#### 4.2.5 本節のまとめ

「由」構文における各他動性のパラメータは表5のように示す。

表5「由」構文における他動性のパラメータ

パラメータ	平均得点
A.参加者	0.93
B.動作様態	0.99
C.アスペクト	0.39
D.瞬間性	0.34
E.意図性	0.01
F.肯定	0.98
G.現実性	0.89
H.動作主性	0.9
I.受影性	0.28
J.個性性	0.64
他動性	0.64

表5の「平均得点」とは、各パラメータで考察した例文の全体に対して採点した結果である。平均得点の算出方法を説明すると、総数  $X$  の例文があり、 $X$  中、あるパラメータに該当する例文が  $Y$  件あり、その他動性が高いとする。個々の例文に対して、あるパラメータで他動性が高ければ、1点を与える。他動性が低ければ、点数を与えない。この場合、 $X$  の例文の中、1点を与えられる例文の数は  $Y$  である。このとき、このパラメータで  $X$  の例文の総得点は  $Y \times 1 = Y$  点となる。平均得点を計算すると、 $Y/X$  である。理論上、平均得点は  $0 \sim 1$  の区間にある。全ての例文で他動性が高い場合、 $Y=X$ 、平均得点は  $1$  である。全ての例文で他動性が低い場合、 $Y=0$ 、平均得点は  $0$  である。この平均得点は、総数  $X$  の例文全体におけるこのパラメータでの特徴を反映している。点数が高いほど、

例文がこのパラメータでの傾向性が強いことになる。逆に、点数が低ければ、例文がこのパラメータでの傾向性が弱いということになる。すなわち、表5は、「由」構文が各パラメータで、どのような特徴があるのかを示している。具体的には次節「4.3 考察」で説明する。

「他動性」の行は、10のパラメータでの平均得点に対して、さらに平均値を算出した結果である。他動性の平均得点も理論上、0～1の区間にある。0の場合、他動性が最も低い。1の場合、他動性が最も高い。表5において、「由」構文は他動性の平均得点が0.64であるため、その他動性は中程度といえる。

### 4.3 考察

孔(2020)はH&T(1980)を基準に、中国語における無標文、「把」構文、「被」構文を考察している。その結果を表6に示す。

表6 無標文、「被」構文、「把」構文における他動性のパラメータ  
(孔(2020)より作成)

パラメータ	平均得点		
	無標文	「把」構文	「被」構文
A.参加者	0.68	0.88	0.74
B.動作様態	0.6	0.98	0.97
C.アスペクト	0.25	0.9	0.61
D.瞬間性	0.56	0.84	0.86
E.意図性	0.45	0.92	0.68
F.肯定	0.9	0.97	0.96
G.現実性	0.63	0.9	0.89
H.動作主性	0.87	0.96	0.91
I.受影性	0.3	0.79	8
J.個性性	0.42	0.75	
他動性	0.57	0.89	>0.66

次に孔(2020)を踏まえ、「由」構文と無標文、「把」構文、「被」構文を比較する。

<sup>8</sup> 孔(2020)が「被」構文の他動性を考察したとき、受影性、個性性のパラメータでは、動作対象でなく、伝統文法が言う「目的語」、つまり、「被」の後に来る名詞句を分析した。結果は受影性が0%、個性性が40.5%であった。しかし、この結果は「被」構文が持つ受影性と個性性の特性を十分に反映していない。また、孔(2020)の大部分の例文はコーパスから収集されたものであるが、どのような抽出法が使用されたかは不明である。したがって、同様の調査を行うことは困難である。ゆえに、この2つの項目を空欄にした。

「参加者」のパラメータでは、「由」構文は平均得点が最も高い。すなわち、4つの構文の中、「由」構文の参加者が2つ以上である割合は最も高い。これは「由」構文が一項しかとらない構造になる場合が極めて少ないのに対して、無標文には自動詞文、「把」構文には主語が省略される命令文<sup>9</sup>のような一項構造があり、「被」構文には「被」の後に名詞が出現しない場合があるからだと考えられる。

「動作様態」のパラメータでは、「由」構文は平均得点が高く、「把」構文、「被」構文に近い。すなわち、多くの「由」構文は「把」構文、「被」構文と同じく動作的であり、無標文と比べ、割合が高い。それに対して、無標文の4割が非動作的である。これは無標文には存在動詞文、コピュラ動詞文が存在するからだと考えられる。

「アスペクト」のパラメータでは、「由」構文は平均得点が低い。すなわち、多くの「由」構文は動作限界がないことを示している。

「瞬間性」のパラメータでは、「由」構文は平均得点が最も低い。すなわち、4つの構文の中、「由」構文が瞬間的である割合は最も低いことになる。

「意図性」のパラメータでは、「由」構文は平均得点が最も低く、0に近い。すなわち、多くの「由」構文は非意図的である。その一因は前述の通り、「由」構文において、行為は動作主の意志ではなく、誰かに要求されたというニュアンスがあるためである。この特徴は意図性の表出を抑制すると考えられる。

「肯定」のパラメータでは、4つの構文は平均得点が高く、近似値となっている。すなわち、4つの構文には肯定文が多い。

「現実性」のパラメータでは、「由」構文は平均得点が高く、「把」構文、「被」構文に近くて、無標文より高い。すなわち、多くの「由」構文は現実的である。

「動作主性」のパラメータでは、4つの構文は平均得点が高い。すなわち、4つの構文は動作主性が高い、つまり動作主が有生物の場合が多い。

「受影性」のパラメータでは、「由」構文は平均得点が最も低い。すなわち、多くの「由」構文は動作対象が影響を受けないあるいは部分的に影響を受けることを示している。「由」構文は結果ではなく、動作を重視するため、状態変化は「由」構文にあまり見られない(張 2005)。したがって、「由」構文は受影性が低い。

「個性性」のパラメータでは、「由」構文は平均得点が無標文の数値より高く、「把」構文の数値より低い。孔(2020)は「被」構文の動作対象の個性性を分析していないが、張(2004)によると、「由」構

---

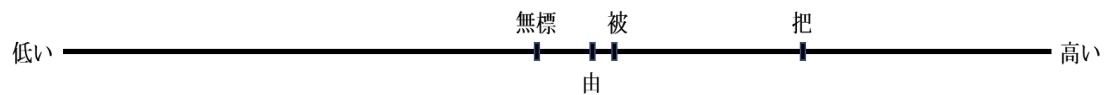
<sup>9</sup> 中国語の命令文における主語の省略は義務的ではない。5.1節を参照する。

文は「被」構文と比べ、動作対象が定・指示的である場合が少ないとされている。そのため、このパラメータでは、「被」構文の平均得点が「由」構文のそれより高いと考えられる。すなわち、半分以上の「由」構文は動作対象が定・指示的であり、無標文と比べ、その割合が高いが、「把」構文、「被」構文と比べ、その割合が低い。

以上、他動性の各パラメータで、「由」構文の特徴および中国語における他の構文との比較を述べた。残念ながら、一部のパラメータについては、記述にとどまり、言語学的な解釈ができなかった。

全体的に見ると、「由」構文は他動性がやや高い構文である。「由」構文の他動性は無標文と比べると高いが、「把」構文、「被」構文と比べると低い。他動性をスケールと見なせば、「由」構文、無標文、「把」構文、「被」構文のこのスケールの上での位置は図1のようになる。

図1 他動性のスケール



ちなみに、スケールの両端は(101)と(102)のような文と考えられる。(101)は、参加者が1つ(動物)、非動作的(「考える」は心理動詞であるため)、動作限界なし(動作は未完了であるため)、非瞬間的、非意図的、否定、非現実(未来時制のため)、動作主性が低い(動作主あるいは動作主体が人間ではないため)という特徴がある。また、動作対象がないため、受影性と個性性が判断できない。したがって、(101)は他動性が最も低い文である。(102)は、参加者が2つ、動作的、動作限界あり(動作対象が死んだため)、瞬間的(死ぬ瞬間)、意図的、肯定、現実的。動作主性が高い、動作対象が完全に影響を受ける、動作対象が定・指示的である(固有名詞であるため)という特徴がある。したがって、(102)は他動性が最も高い文である。

(101) 今后 动物 将 不 会 思考。

今後 動物 未来 NEG 可能 考える

‘これから、動物は考えることができなくなる。’

(102) 张三 打 死 了 李四。

張三 毆る 死ぬ PERF 李四

‘張三が李四を死ぬまで毆った。’

#### 4.4 まとめ

本章はH&T(1980)に基づき、「由」構文の他動性分析を行った。「由」構文は他動性が中程度という結果が得られた。「由」構文も含め、中国語における常用文型を比べ、他動性の高低順は無標

文<「由」構文<「把」構文<「被」構文である。各他動性のパラメータを見ると、「由」構文の特徴が分かる。参加者、動作様態、肯定、現実性、動作主性、個性性のパラメータでは、「由」構文は他動性が高いと評価される。すなわち、「由」構文には参加者が2つ以上、動作的、肯定、現実的、動作主性が高い、動作対象の個性性が高いという傾向がある。アスペクト、瞬間性、意図性、受影性では、「由」構文は他動性が低いと評価される。すなわち、「由」構文には動作限界なし、非瞬間、非意図的、動作対象が部分的に影響されるという傾向がある。ここで、特に注目すべきなのは意図性である。ほぼ全ての「由」構文が非意図的である。この点については次章でさらに論じる。

## 5 意図性をめぐって

前述したように、「由」構文は前置詞「由」を取り除くと、命題が変わらず、ニュアンスだけが異なる。(103a)と(103b)は同じ命題内容で、それぞれ無標文と「由」構文である。(103a)と(103b)は同じく、先生が生徒たちを連れて遠足に行くことを表すが、区別がある。(103a)では、先生が何らかの理由で、例えば毎日の勉強で疲れた生徒たちをリラックスさせようと、自ら生徒たちを連れて遠足に行くというシチュエーションが想定できる。それに対して、(103b)では、先生が自ら生徒たちを連れて遠足に行くのではなく、教育面の要求、他の先生に頼まれたなど、外的要因があるため、そうさせられたというシチュエーションが想定される。すなわち、(103a)は意図性があると解釈できるが、(103b)は非意図的としか解釈できない。

- (103) a. 陈老师 带 大家 去 郊游。  
           陳先生 連れる 皆 行く 遠足
- b. 由 陈老师 带 大家 去 郊游。  
           由 陳先生 連れる 皆 行く 遠足
- ‘陳先生がみんなを連れて遠足に行く。’

### 5.1 「由」構文がとる動詞のタイプと意図性

第3章では、「由」構文は主に活動動詞と達成動詞をとることを明らかにした。これらの動詞は通常意図性を持つ。「由」構文との組み合わせによって、非意図性の表現を実現することができる。一方、到達動詞、状態動詞および活動動詞の中の心理動作は「由」構文に入りにくいあるいは入らない。これらの動詞は、通常意図性を持たず、非意図的な動詞である。すなわち、本来非意図性を表現することができる。したがって、これらの動詞は「由」構文を通じて、非意図性を表現する必要がない。そのため、「由」構文は到達動詞、状態動詞および活動動詞の中の心理動作から形成し

にくいものと考えられる。

## 5.2 「由」構文の本質

中国語の格組織は中立型である。つまり、他動詞の主語と目的語、自動詞の主語は同じ格表示を受ける(無標)。(103a)を例として、主語の「陈老师(陳先生)」と目的語の「大家(みんな)」は同じく無標である。一方、「由」構文の目的語は無標のままであるが、主語は前置詞「由」を伴って使われる。そのため、「由」構文の主語は斜格主語と考えられる。このように、主語が斜格になると、ニュアンスが変わることは、世界の言語を見ると、「由」構文だけの特徴ではない。例えば、ベンガル語の与格主語構文(dative subject constructions)も似たような特徴がある。

### 5.2.1 ベンガル語における与格主語構文

Klaiman (1980)は、(104a)と(105a)のような、ベンガル語の与格主語構文について論じた。

(104) a. taar obhimaan hoyeche (Klaiman1980:277)

his pique has-become

‘He was piqued./彼が怒った。’

b. se obhimaan koreche (Klaiman1980:277)

he pique has-done

‘He was piqued.彼が怒った。’

(105) a. aamaar anek laabh hoyeche (Klaiman1980:277)

my much profit has-become

‘I have profitted a lot./私がいっぱい儲けた。’

b. aami anek laabh korechi (Klaiman1980:277)

I much profit have-done

‘I have profitted a lot./私がいっぱい儲けた。’

(104b)と(105b)はそれぞれ(104a)と(105a)に対応する直接主語構文(direct subject constructions)である。Klaiman (1980)によると、両者の区別は主語と述部にある。与格主語構文は主語が斜格、主に属格で表示される。直接主語構文は主語が主格で表示される。両者は述語に定形動詞を導く準動詞が含まれる。対応する与格主語構文と直接主語構文では、定形動詞の部分が同じである。前者は定形動詞の部分が ha- ‘become’ と aach- ‘exist’ など状態と変化の動詞である。後者は定形動詞の部分が ka- ‘do/make’ のような動詞である。全ての与格主語構文が対応する直接主語構文

を持つわけではない。Klaiman (1980)がリストアップした表では、約3分の1の与格主語構文に対応する直接主語構文がない。

Klaiman (1980)の研究で最も示唆的なのは与格主語構文と直接主語構文が意味上の違いに対する検討である。Klaiman (1980)によると、両者の区別は意図性にある。与格主語構文は非意図的であり、一方、直接主語構文は意図的である。Klaiman (1980)は次のような区別を指摘した。

まず、与格主語構文は意図的動詞を取ることができないのに対して、直接主語構文は意図的動詞を取ることができる。

そして、与格主語構文は意図性を表す副詞 *icchaa* ‘willfully’ と共起できないのに対して、直接主語構文はこの副詞と共起できる。

次に、命令文を作る際には、与格主語構文は命令表現に使えないのに対して、直接主語構文は使うことができる。Klaiman (1980)によると、命令は、聞き手が従うか従わないかを定める権利があるため、意図性のある表現である。

さらに、与格主語構文は、例えば、甘党がスイーツの誘惑に負けた場合、渋滞で遅刻した場合など非意図的なシチュエーションに使えるが、直接主語構文はこのようなシチュエーションに使えない。

また、与格主語構文は受動化できないのに対して、直接主語構文は受動化できる。それはベンガル語では、受動化に意図性が関わるためである。

中国語の「由」構文と無標文のペアとベンガル語の与格主語構文と直接主語構文のペアはいくつかの共通点がある。まず、形式上、非意図的構文は、主語が斜格で表示される。そして、非意図的構文は、意図性を表す副詞と共起できない。そして、非意図的構文は、特定のシチュエーションを想起させる。ただし、相違点もいくつか存在する。全ての「由」構文は対応する無標文がある。「由」構文の主語は意味役割が必ず動作主である一方、ベンガル語の与格主語構文の主語は意味役割が経験者でもあり得る。また、「由」構文は命令文を作ることが可能であるが、非意図的構文であるため、聞き手には従うか従わないかを定める権利がない。朱(1981)によると、中国語の命令文は二人称代名詞「你、你们」、一人称代名詞包括形「咱们」を主語として用いる。<sup>10</sup>そのため、中国語の命令文は形式的に平述文と同じ形をしている場合がある。この時、文の意味は発話の場面とイントネーションなどで決まる。(106)は典型的な中国語の命令文である。<sup>11</sup>(107)は(106)から作られた「由」構文である。(106)では、聞き手は行くか行かないかについて、話し手と相談

<sup>10</sup> また、命令文の主語はしばしば省略される。

<sup>11</sup> 発話の場面とイントネーションによって、「あなたが食料品購入担当ですよ」という解釈もあり得る。



する余地がまだある。それに対して、(107)では、話し手が聞き手に誰が行くという決定を知らせるだけで、聞き手は責任者として、特別の理由がない限り、この件を拒否することができない。つまり、「由」構文からなる命令文と典型的な命令文との相違点は、聞き手が話し手を断ることができるかどうかである。ベンガル語の与格主語構文は命令文を作ることが全くできない。この点に関して、「由」構文とベンガル語の与格主語構文は異なる。しかし、「由」構文が命令文を作るとき、典型的な命令文と違い、動作主(聞き手)に意図性がない(断ることができない)ことは、2つの構文はともに「非意図的」という特徴を持つことを示している。

(106) 你 负责 采购 食物。  
あなた 担当する 購入 食物  
‘あなたが食料品の購入を担当してください。’

(107) 由 你 负责 采购 食物。  
由 あなた 担当する 購入 食物  
‘あなたが食料品の購入を担当してください。’

### 5.2.2 非意図的斜格主語構文

McCawley (1976)は、世界の言語では、主格/能格以外の格で表示される人間名詞(human)が非意図/非自主的なシチュエーションに置かれる傾向があることを提示した。Klaiman (1980)はMcCawley (1976)の提案を意図性仮説と呼んだ。前述の通り、「由」構文の一連の特徴は意図性仮説を支持している。「由」構文の本質について、今までの研究は主に「由」構文が受動文であるかどうかを論争しているが、受動文以外の特徴が看過されてきた傾向がある。本稿では、「由」構文が一種の非意図的斜格主語構文であると主張する。

### 5.3 まとめ

本章は「由」構文の非意図性をめぐり、さらなる検討をした。到達動詞、状態動詞および活動動詞の中の心理動作は通常非意図的であるため、「由」構文を通じて非意図性を表現する必要がない。したがって、「由」構文はこれらの動詞から形成しにくいと考えられる。「由」構文とKlaiman (1980)が分析したベンガル語の与格主語構文とは形式上斜格主語をとり、意味上非意図性を持つという重要な共通点があるため、本章では「由」構文の本質は一種の非意図的斜格主語構文であるとする分析を提案した。

## 6.おわりに

本稿では中国語における「由」構文を考察した。以下に議論をまとめる。

第3章では語彙的アスペクトの観点から「由」構文がとる動詞のタイプを分析した。「由」構文は主に活動動詞と達成動詞をとり、到達動詞をとりにくく、調査した限り、状態動詞をとらないことが分かった。興味深いのは、延べ語数を見ると、活動動詞が最も多い一方、異なり語数を見ると、達成動詞が最も多いことである。また、動詞が「由」構文に入ると、句レベルで語彙的アスペクトが変わることがあり、活動動詞が達成動詞となる例が確認された。

第4章では Hopper & Thompson (1980)に基づき、「由」構文の他動性を分析したうえで、「由」構文は他動性が中程度という結果が得られた。「由」構文も含め、中国語における常用文型を比べ、他動性の高低順は無標文<「由」構文<「把」構文<「被」構文である。各他動性のパラメータを見ると、「由」構文の特徴が分かる。参加者、動作様態、肯定、現実性、動作主性、個性性のパラメータでは、「由」構文は他動性が高いと評価される。すなわち、「由」構文には参加者が2つ以上、動作主性、肯定、現実性、動作主性が高い、動作対象の個性性が高いという傾向がある。アスペクト、瞬間性、意図性、受影性では、「由」構文は他動性が低いと評価される。すなわち、「由」構文には動作限界なし、非瞬間、非意図的、動作対象が部分的に影響されるという傾向がある。ここで、特に注目すべきなのは意図性である。ほぼ全ての「由」構文が非意図的である。

第5章は第4章の延長といえる。この章は意図性をめぐり、議論を展開した。まず、到達動詞と状態動詞も、「由」構文も非意図性を表すため、両者が組み合わせにくいと述べた。そして、「由」構文の本質を提示した。「由」構文と Klaiman (1980)が分析したベンガル語の与格主語構文とは形式上斜格主語をとり、意味上非意図性を持つという重要な共通点があるため、本稿は「由」構文を一種の非意図的斜格主語構文であると主張した。

本稿が「由」構文を考察する際、使用した例文は多種のジャンルにわたっているが、ジャンル別に考察しなかった。文体が「由」構文の動詞、他動性に対し、影響があるかどうかの検討は今後の課題となる。機会を改めて「由」構文をジャンル別に考察し、文体が「由」構文にいかに関与するかを解明したい。

## 参照文献

- 謝新平(1999)「中国語の“由”字句と日本語の“によって”受け身文について」『福岡教育大学国語科学研究論集』40:41-54.
- 謝新平(2012)「日中両語周辺現象から見る受動自動使役の連続性:「によって」受動文と「由字句」を中心に」『福岡教育大学国語科学研究論集』53:57-68.
- 角田太作(2007)「他動性の研究の概略」角田三枝・佐々木冠・塩谷亨(編)『他動性の通言語的研究』3-11.くろしお出版.
- 角田太作(2009)『世界の言語と日本語(改訂版)』くろしお出版.
- 楊明(2008)『中国語の結果構文における動補構造の研究』千葉大学博士論文.
- 白荃(1998)「试论在句首的“由+施事”结构的句法功能句法功能及其相关问题」『北京师范大学学报(社会科学版)』1998(6):102-106.
- 陈平(1987)「释汉语中与名词性成分相关的四组概念」『中国语文』1987(2):81-92.
- 陈平(1988)「论现代汉语时间系统的三元结构」『中国语文』1988(6):401-422.
- 戴耀晶(1997)『现代汉语时间体系研究』浙江教育出版社.
- 龚千炎(1980)「现代汉语里的受事主语句」『中国语文』1985(5):335-344.
- 郭锐(1993)「汉语动词的过程结构」『中国语文』1994(6):410-419.
- 孔慧慧(2020)『“及物性假说”与现代汉语句式研究』上海师范大学硕士论文.
- 李卫中(2000a)「“由”字句的句法、语义、语用分析」『汉语学习』2000(4):28-31.
- 李卫中(2000b)「与“由”字句相关的句式和固定格式的考察」『平顶山师专学报』15(3):38-40.
- 李卫中(2007)『“由”字句和“由”字介词框架研究』苏州大学硕士论文.
- 林巧莉、韩景泉(2009)「事件终结性的语言表达」『语言教学与研究』2009(4):18-25.
- 刘爽(2018)『现代汉语被字句及物性研究』杭州师范大学硕士论文.
- 吕文华(1985)「“由”字句——兼及“被”字句」『语言教学与研究』1985(2), 17-28.
- 马庆株(1981)「时量宾语和动词的类」『中国语文』1981(2)86-90.
- 欧慧英(2005)『同义介词“从”和“由”的对比研究』北京语言大学硕士论文.
- 屈承熹「“及物性”及其在汉语中的增减机制」戴昭铭、陆镜光(编)『语言学问题集刊』113-129.吉林人民出版社.
- 沈家煊(2000)「在谈“有界”与“无界”」北京大学汉语语言学研究中心语言学论丛编委会(编)『语言学论丛第三十辑』40-54.商务印书馆.

- 王红旗(2004)「功能语法指称分类之我见」『世界汉语教学』2004(2):16-24.
- 王还(1983)「英语和汉语的被动句」『中国语文』1983(6):409-418.
- 王还(1984)『“把”字句和“被”字句』上海教育出版社.
- 王慧(1997)「从及物性系统看现代汉语的句式」北京大学汉语语言学研究中心语言学论丛编委会(编)『语言学论丛第十九辑』193-252. 商务印书馆.
- 张伯江(1997)「被字句和把字句的对称与不对称」中国语文编辑部(编)『庆祝中国社科院语言研究所建所45周年学术论文集』192-199.
- 张伯江(2001)「被字句和把字句的对称与不对称」『中国语文』2001(6):519-524.
- 张雪平(2008)「“非现实”研究现状及问题思考」『解放军外国语学院学报』2008(5):13-19.
- 张雪平(2009)「非现实句与现实句的句法差异」『语言教学与研究』2009(6):25-32.
- 张雪平(2012)「现代汉语非现实句的语义系统」『世界汉语教学』2012(4):449-462.
- 张谊生(2004)「试论“由”字被动句——兼论由字句和被的区别」『语言科学』2004(3):38-53.
- 张志公(1953)『汉语语法常识』中国青年出版社.
- 赵恩柱(1956)「谈“受”、“挨”、“遭”和“由”」『中国语文』1956(11):48-49.
- 朱德熙(1981)『语法讲义』商务印书馆.
- 朱其智(2002)「“由”字句的语篇分析」『语言研究』49, 35-38.

Dowty, David (1979) *Word Meaning and Montague Grammar*. Kluwer Academic Publishers Press.

Hopper, Paul J. & Thompson, Sandra A. (1980) Transitivity in grammar and discourse. *Language* 56: 251-299.

Klaiman, M. H. (1980) Bengali dative subjects. *Lingua* 51: 275-295.

McCawley, N. A. (1976) From OE/ME ‘ impersonal ’ to ‘ personal ’ constructions : What is a ‘ subject-less ’ S? In: Steever S. B. et al. (eds.), *Proceedings of the 12th annual meeting of the Chicago Linguistic Society: Papers from the Parasession on Diachronic Syntax*, 192-204. Chicago Linguistic Society.

Tai, J. H. Y. (1984). Verbs and times in Chinese: Vendler’s four categories. In: D. Testen, V. Mishra & J. Drogo (eds.), *Proceedings of the 20th annual meeting of the Chicago Linguistic Society: Papers from the Parasession on Lexical Semantics*. 289-296. Chicago Linguistic Society.

Tian Yuan (2009) Verb Classification and Lexical Aspect in Chinese. Beijing Language and Culture

University. MA Thesis.

- Thompson, Sandra A. & Hopper, Paul J. (2001) Transitivity, clause structure, and argument structure: Evidence from conversation. In: Joan L. Bybee & Paul J. Hopper (eds.), *Frequency and the Emergence of Linguistic Structure*. 27-60. John Benjamins Publishing Company.
- Vendler, Zeno (1967) *Linguistics in Philosophy*. Cornell University Press.

## 謝辞

大学院の四分の三はコロナ禍の中で過ごしましたが、修士論文を無事に書き上げることができ、何よりです。

この論文の執筆にあたり、指導教員である佐々木冠教授から多くのご指導を頂きました。厚く感謝を申し上げます。また、佐々木先生は、筆者がこの研究に取り込むきっかけを作ってくださいました。入学した際、筆者の研究計画は文法項目の習得という応用言語学的なものでした。理論言語学に興味を持つのは佐々木冠先生の授業のおかげです。

副査である津熊良政教授からもご助言を頂きました。深く感謝いたします。

アカデミックライティングデスクの皆様は本論文の日本語の表現を修正して頂きました。お礼申し上げます。

最後に、支えてくれた両親に心から感謝します。